

久保・長江中学校区の学校再編に係る第2回土堂小学校区地域説明会議事録

- 1 日 時 令和5年6月3日（土） 18:00～21:55  
 2 場 所 土堂小学校体育館  
 3 出席者 地域住民 62名  
 教育委員会事務局 12名  
 宮本教育長、川鱒教育総務部長、小柳学校教育部長、末國庶務課長  
 三浦学校経営企画課長、石本教育指導課長、石川庶務課管理係長  
 安保学校経営企画課学校経営支援室長、宮崎学校経営企画課企画振興係長  
 玉里庶務課主任、岡田庶務課主任、才谷教育指導課指導主事

4 進 行

担 当	内 容
宮本教育長	<p>18:00～</p> <p>1 開会                      2 教育長挨拶</p> <p>皆様こんばんは。この4月に教育長に就任いたしました宮本佳宏でございます。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>週末の貴重なお時間をいただきまして、本日は説明会をもたせていただきましたところ、多くの皆様にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>私、土堂小の校長をさせていただいておりましたので、3年ぶりにこの場所に帰ってまいりました。石段を上がる時に、毎日この石段を上がり下がりして、土堂小学校に通勤していたな、ということ思い出しました。また、このグラウンドや校舎を本当に懐かしく感じられたところでございます。この体育館も子供たちの土堂っ子太鼓の響きが、毎日鳴り響いておりました。とても素敵な子供たちで、その力強い太鼓の音というのは、一生忘れることはできない、そういった素晴らしいものがあります。そういったところに今日は帰って来て、皆さんとこうして3年ぶりにお会いする方もたくさんいらっしゃいます。どうかこの時間を実りあるものにしたいというふうに思っているところです。</p> <p>私の就任前のことではございますけれども、土堂地区の皆様には3月25日に第1回の地域説明会を開催させていただきまして、教育委員会の再編案についてご説明を申し上げました。多くのご意見を皆様からいただいたというふうに聞いております。</p> <p>本日は改めて、教育委員会の案をご説明申し上げまして、ご意見を頂戴したいというふうに思っております。前回の説明会では、小中一貫教育校では、どんな学校を目指そうとしているのか、その学校でどんな教育を行おうとしているのか、そういった中身が不十分であったという</p>

	<p>ふう感じております。今日は、そうした目指す学校像や教育内容、学校の施設などについて、より具体的なものをご説明させていただきたいというふうに考えております。また、この学校再編についての私教育長としての思いや考えもお話させていただきたいというふうに思います。</p> <p>本日、年度が変わっておりますので、もしかすると初めてお越しになられる方もいらっしゃるのではないかと思います。これまでの経過やこれまで行った説明についても、繰り返し説明する内容があるかと思いますが、そういったあたり、ご理解いただきまして、また、不明な点、思いなどは遠慮なくお話をさせていただいて、貴重な時間、実りあるものになればというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>事務局自己紹介</p> <p>まず初めに資料の確認をさせていただきます。まず、本日のレジメが1枚目になります。次に資料1が前面に映されたスライド資料になります。資料2がこれまでの経緯と今後の予定となります。資料3がこれまでの説明会等の参加状況になります。資料4が3月25日から3月30日までに行った地域説明会での意見、主な質問になります。本日はこの後、教育委員会事務局からの説明を約40分行き、その後学校再編について教育長の思いを述べさせていただきます。その後、質疑応答を行いたいと考えております。本日の終了時刻は20時を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>3 説明</p> <p>これまで育友会・PTA役員と教育委員会との意見交換会や保護者・地域の説明会で説明してきましたとおり、現在提案している新しい学校は、これからの尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校です。新しい学校では、「子供たちが切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校」、「子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた土台作りのできる学校」を目指し、教育環境や教育内容を整備し、尾道教育のスタンダードとして、市内小中学校の教育環境や教育内容の充実を図っていく上でのモデルにしていきたいと考えています。</p> <p>学校再編の案については、2月5日にしまなみ交流館にて保護者説明会を開催、また、3月25日から3月30日まで、小学校区ごとに地域説明会を開催し、様々なご意見をいただきました。本日は、各地域説</p>

明会の様子をお伝えするとともに、保護者説明会や全ての地域からご質問いただきました、小中一貫教育校の教育内容等について説明し、改めてみなさまにご理解をいただきたいと考え、第2回保護者説明会を開催させていただきました。よろしくお願いたします。

本日は、最初に、改めて、学校再編案について説明いたします。次に、小中一貫教育校の教育内容について、具体的に説明いたします。また、小中一貫教育校の施設について、そして、これまでの経緯といただいたご意見について、説明いたします。

まず、学校再編案についてですが、昨年11月22日にご覧のような再編案をお示ししました。久保小学校・長江小学校・土堂小学校は、1つの学校に統合、山波小学校は、1つの学校として存続、久保中学校と長江中学校は、1つの学校に統合し、久保小学校・長江小学校・土堂小学校の統合校と山波小学校の卒業生が、進学します。これらの3つの学校は、小中一貫教育校とし、令和7年4月開校を目指します。

久保小学校、長江小学校、土堂小学校を統合した新しい小学校は、現在の長江中学校のグラウンドに、久保中学校と長江中学校を統合した新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンドに建設します。いずれも令和9年度の使用開始をめざします。山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。

これまでの取組ですが、平成21年度から平成31年度にかけて、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の耐震化の検討を行ってまいりました。

進入路が狭いこと、児童が居ながらでの工事が困難であること、改築や減築が必要な工事が生じたこと、また期間中に、土砂災害防止法に基づく警戒区域等の指定があったことにより、新たな校舎が建築可能な場所が限られ、現在地での耐震化を断念し、併せて、中学校を含めた検討を開始しております。

令和3年度において、安全性の確保を目的として、仮校舎への移転を行いました。

その後、今回提案させていただいております、久保・長江中学校区学校再編の検討を行いました。

仮校舎移転前より、中学校を含めた検討を行ってまいりましたが、学区内の児童生徒の推計を考慮し、よりよい教育環境の実現を目的として検討を行っております。

検討に当たっては、次の3点を基本的な考え方として、検討を行いました。

①の安全性の確保については、学校施設を含め、公共施設は、利用者

の安全を考慮し、土砂災害警戒区域、特別警戒区域内に新たな整備は行わないこと。従って、敷地内と、周囲の大半が土砂災害特別警戒区域にあたる、長江小学校と土堂小学校の敷地には、新たな施設整備は行わないこと。

②の校舎の耐久性については、文部科学省は、大規模改修を行った上で、80年建物を使用することを示していますが、それ以上の建築年数が経過している場合、耐震化をしても、長期にわたり使用することは困難であるため、現在の校舎を、耐震補強して使用し続けることは行わないこと。久保小学校と土堂小学校の校舎は、築80年が経過しており、校舎の継続使用は行わないこと。

そして、③の適正な学校規模の確保については、尾道市教育委員会は、新たな学校施設を整備する際は、よりよい教育環境を確保するため、1学年複数学級となる学校規模での再編を行う方針としていること。久保小学校と長江小学校は、今後も全学年1学級が継続し、土堂小学校は、全学年が1学級となる見込みであること。また、長江中学校も、全学年が1学級となる見込みであることから再編の検討が必要と判断しました。なお、山波小学校は、今後も1学年複数学級を維持する見込みであり、令和7年度での学校再編は行いません。

また、小中一貫教育校についてですが、学校の組織としては、3つの学校は従来通りそれぞれが独立した学校です。新しい小学校、山波小学校、新しい中学校のそれぞれに校長と教員組織があり、児童はそれぞれの小学校を卒業した後、指定学校となる新しい中学校に入学します。現在、小学校と中学校は、それぞれが目指す子供像を設定し、6年間または3年間の教育課程を編成して教育活動を行っていますが、小中一貫教育校では、小学校と中学校が、共通の学校教育目標の下、目指す子供像を共有し、義務教育9年間を通した系統的な教育課程を編成します。義務教育9年間で教育課程を考えることにより、これまで以上に魅力的で子供たちに力を付けることのできる教育が可能になると考えています。また、教育研究の研究主題や、生徒指導規程等、学校運営上必要な事項の多くが小学校と中学校で共通となるため、授業や生徒指導において、教職員が、共通の指導方法で9年間児童生徒に対応することが可能となります。

画面に出ているパンフレットは、これまでの説明会でお示ししているものです。このパンフレットで示している内容は、実現できるように検討しています。例えば、「知」確かな学力では、高学年への教科担任制の導入、「徳」豊かな心では、おのみち学、郷土愛の充実、「体」健やかな体では、健康で活力ある児童生徒の育成、「信頼」地域に開かれた

<p>石本教育指導課長</p>	<p>学校づくりでは、新たな中学校区をコミュニティ・スクールとし、魅力ある学校にしていきたいと考えています。</p> <p>次に、小中一貫教育校の教育内容について説明します。</p> <p>初めに、小中一貫教育校で目指す児童生徒のゴールイメージです。</p> <p>小学校での学びの集大成として、「おのみち学」等で学んだことを発表する「伝統文化祭」のイメージです。このような場を設定し、保護者や地域の方と、子供たちの成長を喜び合いたいと考えています。</p> <p>中学校では、9年間の探究的な学びの集大成として、「まちづくり政策提案発表会」のイメージです。夢の実現や社会的自立に向け、地域に貢献することのできる生徒の姿を、保護者や地域の方に見ていただきたいと考えています。</p> <p>これから新しい学校の教育内容面について現在構想していることを「目指す子ども像」「教育資源」「教育内容」の3点について、説明させていただきます。</p> <p>まず、小中一貫教育校の目指す子ども像は、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子ども」と考えています。ここには「子供たちが尾道で育ち学んでよかったと誇りに思い、自分の可能性に挑戦し、豊かな人生を切り拓いてほしい」という願いを込めています。</p> <p>9年間の学びで育てる力は、小中一貫教育校の出口を意識し、15歳の生徒に身に付けさせたい力として、広島県教育委員会が、自己実現を図っていくための基礎を義務教育段階で培っていくために設定している力と同様、「自己を認識し、人生を選択し、表現できる力」を育みたいと考えています。</p> <p>また、育てたい資質・能力として、学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性」等、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」等と考えています。これは、学習指導要領上示されている資質・能力であり、尾道教育総合推進計画の中でも、尾道の子供たちに育成すべき資質・能力として掲げているものです。小中一貫教育校においても、これら3つの力をバランスよく育てていくことが大切だと考えています。</p> <p>これまで説明した資質・能力等を育成していくため、尾道らしさ、尾道ならではの視点を持って学びの在り方を考えています。そのために、尾道の教育資源である歴史、文化、産業等を確認しておきます。</p> <p>「歴史から学ぶ」として、港町尾道の誕生と発展です。平安時代の第1期黄金時代では、尾道が年貢米の積出港となり、江戸時代の第2期黄金時代では、北前船の寄港地、西国街道や出雲街道による人と物流の交</p>
-----------------	--

	<p>流点となり、明治時代の第3期黄金時代では、鉄道開通、銀行設立、市制施行等が行われ発展していきました。</p> <p>「文化・産業から学ぶ」として、魅力ある歴史文化の継承です。尾道には、囲碁文化、茶文化、石工文化等が発展し、歴史的遺産としての国宝や多くの重要文化財があります。祇園祭、山波とんど行事、神明祭などの祭りも伝統文化として継承されています。また、尾道は3つの「日本遺産」、箱庭的都市尾道、村上海賊、北前船の認定を受けています。</p> <p>そして現在、未来へ向けて、第4期黄金時代を自分たちが創っていくんだという気概に満ちた、世界とつながるものづくりや日本に誇る農林水産業が行われています。</p> <p>「先人から学ぶ」として、尾道に誇りを持ち、尾道を愛し、尾道の発展に・・・。</p>
住民1	勉強しに来たんじゃないんで、今まで小学校、中学校、そういう教育をしていないのか。勉強しに来たわけではない。
小柳学校教育部長	おっしゃることは、おっしゃることだと思うが・・・。
住民1	小学校、中学校、我々はそういう勉強をしていないのか。
小柳学校教育部長	我々は、今、新しい学校のコンセプトや教育内容について説明をさせていただこうということで、今説明をしている。これまでも・・・。
住民1	じゃあ、これまでのことも言わないといけない。これまでもしてきただろう。
小柳学校教育部長	ですから、これまでもしてきた内容も含めて、教育内容として、これからどういう中身でというのを提案させていただいている。
住民1	勉強しに来たわけではない。たらたらたらたら同じことを。
小柳学校教育部長	同じことを言っているつもりはこちらはないが、新しい学校を創っていったり、学校再編をしていくのには、やはりこういった考えを教育委員会がもってやらせていただいているんだということが・・・。
住民1	だったら、新しい教育をしないのはなんでかということと言わない

	といけない。
小柳学校教育部長	この後出てくる。そういったことも・・・。
住民1	新しいことをすればいいってことではない。古い時代のものも大事なものはある。
小柳学校教育部長	もちろんそういう観点で・・・。
住民1	残すことは大切でしょう。
小柳学校教育部長	そういう観点のもと・・・。
住民1	残すことは。
小柳学校教育部長	最後まで話を聞いていただいて・・・。
住民1	ここに来ているものほとんどの方が、学校を残したい。だいたい小学校がなんで各地区にあるかという話が。なぜ小学校が小さいコミュニティであるのか。
小柳学校教育部長	まず私たちの提案を聞いていただかないと・・・。
住民1	なぜ小学校が小さいコミュニティであるのか。
小柳学校教育部長	それは各・・・。
住民1	それは安全じゃないのか。
小柳学校教育部長	それは子供の安全かどうか分からないが・・・。

住民1	そういうところから議論しないといけないのではないか。
住民2	そんな無責任な言い方でいいのか。
小柳学校教育部長	無責任な発言をしているつもりはないが、まずは私たちの説明会ということでお集まりいただいたので、まずは私たちの説明を聞いていただきたいということを思っている。
住民3	あの、説明をされているが、これまでの経緯についての説明はあるが、齟齬がある。この中では、耐震化できないとか、そういう話をしているが、私、住民監査請求で、居ながら耐震の住民監査請求を行った。監査請求をして、それは否定されたが、否定された理由は、行政の裁量権ということだった。居ながら耐震ができないという理由では蹴っていない。分かるか。できた。だから耐震化できないという理由で、向こうへ動かすという理由にはならない。こういうことを書いてくれないと。前提が違ったらまず違う。
住民2	今までのことを論破されているのを、また同じことを言っている。
住民3	そこはレッドゾーンだと言ったって、レッドゾーンは数か所であって、全部がレッドゾーンではない。だから、あたかも全部できないように書いてあるが、でもそれはミスリードするように書いてあるだけであって、真実を書いていない。これはどうするのか。そういうことが前提にあって、ちゃんと説明できて初めてこういう話ができるのであって、できるものをできないと言って、こうやりますというのが今の教育委員会。違うか。
川鰭教育総務部長	今、質疑応答の時間ではないので、まずは我々の説明を聞いていただかないと、このまま質疑応答に入っていきますと、我々の説明はいつできるのかと逆に聞きたい。これから違う話も出てきますと、先程我々の方で説明させていただいたと思うのだが。まず聞いてください。
住民2	違うところだけ言えや。
川鰭教育総務部長	まず聞いてください。他の地区でも同じ説明を差し上げる。



住民	聞きたいことだけまず説明しろ。
川鱈教育総務部長	私どもも、様々なことを考えてきたということも含めて、新しいこともご提案を差し上げていきたいと思っているので・・・。
住民2	何一つ答えがないではないか。
川鱈教育総務部長	まず聞いてください。お願いします。
住民	簡潔に説明しろ。
石本教育指導課長	<p>それでは失礼します。続けさせていただきます。</p> <p>「先人から学ぶ」として、尾道に誇りを持ち、尾道を愛し、尾道の発展に貢献された、平山角左衛門、三木半左衛門、山口玄洞などの先人や、自分の信念を持ちやり抜き、美術界、文学界の発展に貢献された、小林和作、林芙美子などの先人が、まちづくりや芸術文化について導いてこられ現在の尾道の発展につながっています。</p> <p>このような尾道独自の視点を踏まえた学びを実現していくためには、次の3つを意識して教育内容を創っていくことが大切であると考えています。</p> <p>1つ目は、「グローバルな学び」世界を意識した学びと、「ローカルな学び」尾道という地域を意識した学びを組み合わせることで教育内容を創造していくことです。</p> <p>2つ目は、「個別最適な学び」児童生徒が自分の目標や進度にあったやり方で学習を進めたり、自分の興味関心のあるものを選んで学習を進めたりする学びと、「協働的な学び」学級に限らず、異なる学年の児童生徒や地域の人々などと協力しながら、主体的に問題解決していく学びを組み合わせ、1時間の授業や単元を工夫した教育内容を創造していくことです。</p> <p>3つ目は、1つ目の「グローバルな学び」「ローカルな学び」と2つ目の「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせることで9年間の学びを創造していくことです。</p> <p>具体的には、「グローバル」な学びの創造として、世界につながる英語教育やキャリア教育を充実していきます。</p> <p>英語教育では、小学校1年生から外国語活動を導入したいと考えて</p>

います。1・2年生は年間20時間程度、学級担任とALTまたは非常勤講師により授業を展開し、3・4年生の外国語活動につなげていきたいと思えます。早期に導入することにより学ぶ意欲やコミュニケーション能力の向上に繋がることを期待しています。

近隣高等学校と連携することにより、小中学校ともに校内暗唱大会、スピーチコンテスト、ディベート等による表現力の向上が期待できます。

ALTを中学校に常駐させることに加え市教委ALTを小中学校へ派遣することで、小学校では学期に1日程度、英語以外の教科も英語での授業を試みるイングリッシュデーを、中学校では学期に1週間程度、英語以外の教科も英語での授業を試みるイングリッシュウィークが設定できないか考えています。英語以外の教科でも英語に親しむことにより児童生徒の興味・関心が高まったり言語能力が育まれたりしていくものと考えています。

また、友好交流都市である台湾嘉義市の小中学校とオンラインによる交流を続けるとともに、英語圏の小中学校とのオンラインによる交流も検討していき、コミュニケーション能力や発信力の向上を目指していきたいと考えています。

グローバルな学びでのキャリア教育では、地元企業や事業所等との連携により職業観、勤労観を育成していきます。

小中学校では、地元企業や事業所等への訪問学習や出前授業を企画、実行し、児童生徒が企業等の技術や、職業人としてのキャリア等を直接学ぶことを繰り返し、視野を広げ夢や志につなげてほしいと考えています。また望ましい職業観、勤労観を育成していきたいと考えています。

次に、「ローカル」な学びの創造として、総合的な学習の時間を核として、ふるさと「尾道」の特色ある伝統や文化を学ぶ「おのみち学」を充実していきます。

これまで各学校で引き継がれてきた伝統である、能、神楽、茶道、太鼓等の教育活動を再構成し教育内容とすることで、郷土を愛する心を育てます。

例えば、新しい小学校では、能や太鼓、山波小学校では神楽、中学校1年生では茶道というように小学校の地域性や児童生徒の発達段階も考慮しながら、礼儀作法を身に付けたり、日本の伝統文化を感じたりすることができる教育内容を創っていききたいと考えています。

また、縦割りでの教育活動を取り入れ、児童同士、生徒同士の関わりを深めていくことや、中学生の姿から小学生が「あこがれ感」をもつよ

うな教育活動も仕組んでいけたらと考えています。

ローカルな学びのキャリア教育では、中学校では、地元企業等への職場体験活動や市内の高等学校や尾道市立大学への訪問を通じた進路学習を行い、進路指導の充実を図り社会的自立に向けた力を育てていきます。

また、現在と同様に、小学校4年生で2分の1成人式を、中学校2年生で立志式を実施し、自らの志を立て、これからの人生を逞しく生き抜こうとする自覚・意欲を高めてほしいと考えています。

小学校6年生の2学期には、小学校段階の「おのみち学」等で学んだことを保護者や地域の皆様へ発表する場として、「伝統文化祭」のような発表会の開催を目指したいと考えています。

この画面では、開校2年目の令和8年10月24日に開催となっておりますが、令和7年度に実施可能ということになれば開催していくということも考えられます。

小学校では、現在土堂小学校をはじめ、市内数校の小学校で実践している、学びの「基礎・基本」を大切にしたモジュール授業を展開したいと考えています。これまで積み上げてきている土堂小学校の実践を活かし、林芙美子、志賀直哉等の文学作品を取り入れた音読教材や尾道の産業やデータを取り入れた教材の開発ができればと考えています。

次に、9年間の「グローバルな学び」「ローカルな学び」と「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせた学びの集大成として、まちづくりへ参画し、商工業、観光、農林水産業、教育、医療、福祉等の視点から生徒自ら政策を提案していくような教育内容ができないか考えています。

中学校3年生のゴールイメージを中学校1年生の早期に持たせ、学習課題を設定、まちづくりへの政策提案をする分野を決定させます。職場体験活動や進路学習も政策提案に向けた学習内容に組み込み、総合的な学習の時間を核とした「おのみち学」を充実させていきたいと考えています。また、これらの学習を通して、15歳の生徒に身に付けさせたい力を育成していきたいと考えています。

中学校3年生の2学期には、9年間の「おのみち学」等で学んだことの集大成を保護者や地域の皆様へ発表する場として、「まちづくり政策提案発表会」のような発表会の開催を目指したいと考えています。

この画面では、開校2年目の令和8年11月20日に開催となっておりますが、令和7年度に実施可能ということになれば開催していくということも考えられます。

スライドでは触れていませんが、中学校の部活動について、今後の休

	<p>日の地域移行の動向にもよりますが、運動部、文化部の枠を超えて、地域活性化部というような地域に根差し地域を活性化させる目的を持って部活動を構成してみるのもいいのではと考えています。例えば、地域貢献部、ボランティア部、伝統文化部、能、神楽、太鼓、茶道等、ダンス部等が考えられると思っています。</p> <p>以上のように、小中一貫教育校の柱になり得る教育内容について提示しました。これらは現段階の検討内容であるため、そのまま実現できるかは分かりませんし、新たなアイデアや考えによって再構成されることもあると思っています。教育委員会としては実現させていきたい内容となっていますので、皆様方から意見をいただきながら精度を高めていきたいと考えています。また、今後統合に向けての機運が醸成されていけば、6校の教職員の皆さんと教育課程の編成やその教育内容について、これまでのパンフレットの内容や今日提示した内容も含め議論していきたいと考えています。</p> <p>また、お示しした教育内容を実現するためには、学校だけではできません。小中一貫教育校では、説明しました通り、地域を基盤に置いた教育を行ってまいります。そのため、小学校区の枠組みや学校の場所は変わっても、また、山波小学校においても、子供たちが地域に出向いたり、地域の方をお招きしたりして、これまで以上に、地域との関係を大切にしていきたいと思います。そのため、地域のみなさまのご協力が必要となります。ご理解をお願いいたします。</p>
岡田庶務課主任	<p>ここからは新しい学校の施設について説明いたします。学校再編により、冒頭からの説明の通り、統合小学校、統合中学校を設置する予定です。新しい統合小学校は、</p>
住民1	<p>今のことに関しての質問はどうするのか。今の教育論に関して言えば、どうぞやっていただけたらいいと思う。</p>
住民4	<p>今までできていないのか。</p>
住民1	<p>今までの環境でもできるのではないかと思う。なぜそれを統合してという形でしか表現できないのかが分からない。</p>
住民4	<p>なぜ新しい学校でないとできないのか。</p>
岡田庶務課主任	<p>すみません。質疑応答の時間も後ほどお取りしておりますので、一旦施設の説明を・・・。</p>

住民 1	なんでもそうやって、質疑応答の時間をと言うけど、今の話は、教育としてはもっともな話だし、どんどんやっていただきたいと言っている。
岡田庶務課主任	ありがとうございます。
住民 1	でも、ここに来られている方は、そういう話で来られているわけではない。分かっているか。
三浦学校経営企画課長	すみません。今、施設・・・。
住民	今の環境で、今の教育長ならできるのではないか。
三浦学校経営企画課長	今、施設の説明をしているが、施設というのは、教育内容と密接に関わってくる。このような教育をするには、このような施設がいいという話もある。そのこともさせていただくので、最後まで聞いていただきまして、その後で必ず質疑の時間はお取りしますので、お待ちください。
住民	つらつらと一方的に言われても頭の中に全然残っていない。とにかくしゃべることはしゃべると。後で聞くと言われても、大学でも先生が一方的に話すのは、一番つまらない講義だろう。そんなのを小学校でやるのか。児童が聞いても聞いてなかろうが、とにかくしゃべる、それが教育か。教育の基本は双方向性だろう。今の時代。あれだけ長かったら、後でやると言っても誰が残っているか。尾道の教育の根本に関わる。とにかくやらないといけないことを一方的に20何分じゃべって。誰が頭に入るか。時間が経ったら、もっと消え失せる。そこを考えて説明に移って。
岡田庶務課主任	では、次の説明に入らせていただいてもいいか。
三浦学校経営企画課長	おっしゃることはよく分かるが、本日は説明会なので、まずは聞いていただきたいと思う。
住民	聞きたいことを言わないで、聞きたくないことを一方的に言う。とても理解できない。

岡田庶務課主任

では、すみません。スライドの続きから始めたいと思います。

新しい統合小学校は、現在の長江中学校のグラウンド側のみを敷地とし、現在の長江中学校屋内運動場は老朽化のため建て替えとし、屋内運動場を校舎の中に配置した、5階建ての校舎を建築します。校舎の供用開始は令和9年度からとなります。その後、屋内運動場のあった位置にプールを新設します。プールは令和11年度からの供用開始となり、それまでは現在の長江小学校のプールを使用します。

新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンドに建設します。3階建ての見込みで、令和9年度の使用開始をめざします。

山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。

中学校整備スケジュールです。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。令和7年4月から統合校が開校となり、そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間生徒は、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎で学びます。令和8年度末で新校舎が完成し、令和9年度から新校舎での学習が開始されます。その後、既存校舎の解体等を行い、工事は終了します。

小学校整備スケジュールです。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。令和7年4月から統合校が開校となり、そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間、児童は、現長江中学校の校舎と長江小学校の仮校舎で学びます。令和8年度末で新校舎が完成し、令和9年4月から、児童は新しい校舎で学ぶこととなりますが、令和9年度から10年度にかけて、現在の屋内体育場を解体し、プールの新築工事を行います。プールは令和11年度からの使用をめざします。

ここまで、施設の概略を説明しました。

ここからは、先程ご説明しました新しい学校での教育を実現するため、施設面で新しく取り入れる機能を説明します。

大きく3つのものを取り入れていく予定です。

- ①ロッカースペース導入による専門科目教室の設置
- ②ワーキングスペースの設置
- ③プロジェクター方式の黒板の導入

です。詳細については、次のとおりです。

まずは、①のロッカースペース導入による専門科目教室の設置ですが、これは、今まで各教室に配置しておりました個人のロッカーを、ロッカースペースとして別の場所に設置し、教室からロッカーをなくし

ます。一日の始まりは、荷物をロッカースペースへ収納し、1時間目の授業は時間割教科の教室からスタートします。このことにより、今まで普通教室としか機能していなかった教室を、国語や英語や社会などの専門科目教室として使用することが可能です。各教室内は、その教科に特化した掲示や備品を整理でき、中学校をはじめ、小学校における教科担任制への手助けとなると考えています。

この度提案しております案の検討にあたり、教育委員会も他校の視察を行っており、先進的な取り組み例を参考にしております。例えば、こちらは叡智学園の例です。特徴的な校舎の作りで全体像は取り込めませんが、水色の教室スペースに対し、赤のロッカースペースを設置し運用しております。

例えば、新しい中学校の整備イメージですが、従来までであれば、こちらのようなレイアウトが考えられます。多くは、64㎡の普通教室を整備し、各学級のクラスルームがあり、ロッカーも教室内へ設置している形状です。

こちらが、新しい学校のレイアウトイメージです。ホームベースと呼ぶロッカースペースを各学年1スペース設けます。各教室は100㎡程度とし、各教室のしつらえを教科ごととし、専門科目教室の充実を図ります。自分のHRは設置せず、教室の多様な仕様が可能になります。1年1組等のクラス編成は行いますが、1年1組の教室を固定しない朝夕のHRは1時限、最終時限の教室にて実施するというイメージになります。

次に、②のワーキングスペースの設置です。これは、スライド17、協働的な学びの実践のため導入するものです。これからの教育は、自分でテーマを設定し課題を探究するスタイルへと変化しており、グループワークを行うスペースの確保を行う予定です。イメージとしては、図書室付近にスペースを創出し、グループワーク中に図書室やタブレット端末で、自分で調べ物を行うイメージです。またこれに合わせて、各教室の面積を1.5倍にして教室内にもスペース創出してあります。

叡智学園でのイメージです。ここでは各教室の真ん中にワーキングスペースを配置しており、図書メディアの近くでは、タブレット等を用いたグループワークが実践されてきました。

こちらが、新しい中学校のイメージです。校舎の端を利用し、ワーキングスペースが創出できるかと考えています。

こちらが教室内のワーキングスペースです。教室の後ろ側にスペースを確保するイメージです。すなわち、ワーキングスペースが複数箇所設置でき、新しい教育への手助けになると考えています。

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>また、画面にあるような、黒板はプロジェクター方式の導入の考えております。先生の説明用に加え、各児童生徒のタブレット端末を写すことで、グループワークの成果の共有ができることに加え、ホワイトボードとしても利用できます。特にワーキングスペースなど、壁に投影できる特徴を生かし、充実した授業ができることが期待されます。</p> <p>また、理科室等の特別教室の作りも、実験台を固定化させず、この教室を理科だけでなく、他の用途、例えば少人数教室等としても利用することを想定し、これまで以上に利便性を上げていく予定です。</p> <p>これらの施設は、中学校施設での本格的導入を考えています。</p> <p>小学校施設については、従来型の良さも活かしつつ整備を行いたいと考えています。小学校高学年でこれらの機能に触れることができ、中学校生活に移行できるよう体験的な意味合いで小学校では一部の場所で①～③の施設を整備したいと考えています。</p> <p>さて、学校再編案については、これまで、育友会・PTA役員さんとの意見交換会を中心に据え、ご意見を伺いながら、ご覧のように、保護者や地域の皆様を対象とした説明会や、議員の皆様への説明会を開催してまいりました。保護者・地域への説明会等にご出席いただいた方々の人数等については、資料3の通りです。また、資料4に3月25日からの第1回地域説明会でいただいた主なご意見やご質問を整理しておりますので、ご覧ください。なお、資料4記載のページ数は、尾道市教育委員会のホームページに掲載しております、各地域説明会の議事録の中の、同様の意見を多数いただきましたが、その内の代表的なページを示しています。第1回地域説明会では、土堂地域では、長江通りの安全確保、地域説明会の在り方、土堂小教育の評価、土堂小学校の現地存続について等、久保地域では、小中一貫教育校について、通学方法や通学支援について等、山波地域では、小中一貫教育校について、通学方法や通学支援について、統合のメリット・デメリットについて等、長江地域では、小中一貫教育校について、長江通りの安全確保、新しい校舎の地域開放について等のご意見をいただきました。また、今後、6月3日から小学校区ごとに第2回地域説明会、6月7日に第3回議員説明会を開催する予定としています。</p> <p>本日は、保護者説明会、地域説明会で、多くの保護者、地域の方からご質問をいただきました通学路の安全安心の確保について、現段階における取組状況について説明します。</p> <p>新しい小学校への主な通学路として考えられる長江通りについて、4月20日に教育委員会、長江小学校長、道路管理者である広島県、尾道警察署、長江小学校の育友会長さんで合同点検を行い、通学路の安全</p>
-------------------	---



安心のため、何ができるか協議を行いました。その結果、次の二つについて、実施に向けて取り組んでいくこととなりました。

一つ目は、長江三丁目の千光寺方面との交差点と旧長江小学校の前に注意喚起の表示や着色を行うこと、二つ目は、現在、北から途中まで引かれているグリーンラインを長江口近くまで延長することです。今後もどのような対策を行うことができるか検討し、通学上の安全安心の確保に努めてまいります。

また、新しい小学校への路線バスを活用した通学支援については、その可能性を検討しているところです。小学校3km以上としております学校統合の本市の通学支援の基準を踏まえ、通学距離や対象学年など、どのようなあり方が考えられるか検討してまいります。

また、山波小学校区の地域説明会では、山波地域から久保中学校への路線バスを利用しての通学について、今後、バスを利用して通学する生徒が増加することへの不安の声をいただきました。今年度は70名が路線バスを利用して久保中学校に通学していますが、現在の小学校1年生が中学校に入学する令和11年度には、山波小学校の児童全員が新しい中学校に進学する場合、111名まで増加する見込みです。利用生徒の増加に伴い、バス車内の混雑が考えられることから、今後も児童生徒数の推移に注視してまいります。

尾道市では、安全な給食提供を継続するために、市内の老朽化した給食施設を計画的に整備していくこと、また令和8年度からは、市内全中学校での全員給食開始を目指し、施設整備事業に着手しています。

現在、関係する小学校では、栗北学校給食共同調理場から給食を配送しており、また、関係する中学校ではデリバリー給食を提供していますが、新たに高須地区に2,500食規模の給食センターを整備し、今の予定では、統合校、久保小学校、長江小学校、土堂小学校、久保中学校、長江中学校のほか、三成小学校、栗原北小学校、吉和中学校、日比崎中学校、美木中学校へドライシステムの調理場から給食を配送する計画として事業を進めています。

また、食育については、既に取組の一例として栗原北共同調理場では、調理作業の映像を撮影し、関係校の児童が視聴できる取組なども行っていることから、自校給食の学校のみならず、新センターからの配送となる学校においても、その取組は継続すること、また新施設の中にも調理場内での作業が見学出来るスペースを整備する予定であること等、いずれの学校においても、同様の食育の取組が出来るよう計画していきます。

また、児童生徒への配慮についてのご要望をいただきました。令和7

年度の統合に際しての、児童生徒の不安や負担は大きいものと考えています。そのため、前の年の令和6年度から児童・生徒間の交流を行うことで人間関係を構築してまいります。また、統合時に中学校3年生となる生徒が、スムーズに新しい中学校に馴染むことができるよう、各学校の授業進度や授業内容を合わせていくとともに、久保中学校と長江中学校にある部活動の種目は、当面維持することで、所属していた部活動がなくなるのではないかという生徒の不安を払拭してまいります。そして、久保中学校と長江中学校の地の利を生かして、部活動の合同練習を行っていくなど、部員同士の交流を深めてまいります。

最後に、新しい学校の開校時は、各小学校、中学校から教員を配置することで、児童生徒の不安を可能な限り解消できるよう努めてまいります。

大変長くなりましたが、以上で終わります。

なお、第3回保護者説明会、地域説明会についても日時は未定ですが、今後行うよう検討しております。この後、質疑応答を行ってまいります。その前に、今年度就任しました宮本佳宏教育長が、学校再編についての思いを述べさせていただきます。

宮本教育長

みなさんが、ここでなぜ存続できないのかという、その問題ですよね。そこをちょっとお話したいと思うんですけど、私もここで素晴らしい土堂小学校で校長をさせていただいて、本当にいつまでも土堂小学校が残ったらいいなあというのは、今も心の中にはあるわけです。ですが、なかなかそれが難しい状況にあるということを今ちょっとお話したいと思うんです。またご意見を後いただけたらと思うんですけど。

まず一つはですね、皆さんからも先程ありました土砂災害の危険性の問題です。全体が土砂災害の危険区域に入っているわけではないということを先程おっしゃいましたけれども、ここ利便性がすごくいいですよ。駅にも近いですし、商店街も近いですし、すごくいい場所に学校があります。ですから、皆さんもここに学校を残したいと、そう思われるのは、当然だと思うんですけども、ただ、この急傾斜の山ですよ。ここ何年かの状況を見ると、今まで安全だったから、崩れないからこれからも大丈夫だろうという、それはちょっと言えない時代になってきたんじゃないかと思うわけです。校長としては、昨日の朝、結構（雨が）降りましたですね。ああいった雨が降った時に、さあ大丈夫だろうかと言って、いつも山の方を気にするような、まあそういう子供たちの命を預かる校長としては、すごく心配なんですよ。そういう土砂災害の危険性があるってことで、今、尾道市は、新しい学校を造る上で

は、そういう危険性があるところには造らないという方針を示しているわけですね。まず一つ、これが難しい点ですよ。

次に、こっちの方が難しいんですけど、児童数が今減っています。残念ながら。学校選択制で、私が校長をしていた時は40人の枠がありまして、多くのお子さんがバスとか電車を利用して通って来られていました。だから、全校で280とか300近いお子さんでした。一学年も2クラスずつくらいの規模で、いい規模の学校でした。でも、今1年生から4年生は1クラスになってしまっている。それは、学校選択制を平成30年度に教育委員会が見直したからで、その時にちょうど耐震化できていないから0になった時期がありましたよね。校区外から学校選択ができない、来れない。今年から入学のお子さんから5人に復活させてますよね。学校選択制で、なぜ見直しが行われたかというとなんですけれども、40人の枠があって、土堂小学校に他の校区から通って来られた時に、私、校長としてはすごくうれしい気持ちがありました。それは、土堂小学校を選んでくださって、土堂小学校期待して、保護者の方、そしてお子さんが入学して来られた。だから、その期待に応えたいという思いで、毎日校長をさせていただいておりました。ただ、私、教育長になって、この4月、5月いろんな方にお会いして、ちょっと認識を改めないといけないなと思ったのはですね、土堂小学校は、学校選択制の枠が40人ということで、すごく恩恵を受けたんですけれども、実はマイナスの影響を受けている地域が結構あるということです。これは、なかなかつらいというか、土堂小の校長だった者としては、すごくショックなことでした。つまり、もともと少なくなっているお子さんが、土堂小学校に来られることによって、ますます地域のお子さんが少なくなってしまう。そうすると、その地域でのいろんな活動、子供たちの絆、そういったものが、なかなか難しくなるという問題ですね。ですから、そういったお子さんが他の学校に学校選択制で行ってしまって、少なくなっている地域の方は、学校選択制をあまり快く思っていないんじゃないかと思えます。ですから、復活させたらいいかということなんですけれども、枠を、これは難しいです。やはり、そういったマイナスの影響を受けられた地域の方々の立場を考えると、また土堂小学校の学校選択制の枠を40人に復活させるというのは、これは難しい。そこにまた一つ大きな難しさがあります。

議事録を読ませていただいたらですね、日比崎小学区の校区の見直しをしたらどうかという意見をいただいていたね。これは、私も考えていたことがあったんです。この日比崎小学校区の学区の見直しについて、この4月、5月にいろいろ考えてみたんですけれども、私がそ

の時に頭に浮かんだのは、平成、すみません、令和元年度に、土堂小学校は耐震化できていない、危ない校舎だから、即刻安全性を確保しなくてはいけないということで、栗原小学校に転校する案というのが、教育委員会から示されました。私はこれを聞いて、何を言っとるんだと、教育委員会は、子供や保護者のことをちゃんと考えているのかという、そういう思いを校長としてもちました。で、皆さんも反対されて、この案は撤回されたということがありましたね。それがなぜ浮かんだかというと、じゃあ、日比崎小学校の校区を見直した時に、じゃあ来年からこの日比崎小学校に行っていた人たちは土堂小学校に来てくださいというわけですね。そうすると、私たちが何をもって頭にきた状況を今度は日比崎小学校の関係の方たちに、そういう同じ思いをさせてしまうのではないかと。それが私は一番難しい問題ではないかと思うんです。もちろん土堂小学校を存続させるために、人数を増やす方策としては考えられる方策だとは思いますが、ですけども、日比崎小学校の皆さんの心情を考えるとですね、なかなかそれはすぐにはできるかっていうと、難しいですし、特に私は、栗原小学校に転校しなさいと言われて、ショックを受けた者としてはですね、ちょっとそれはなかなか言えないなというふうに思うんですね。ですので、児童数を増やして存続するというのもなかなか難しいわけです。

そういうことがあってですね、もう一つ問題は、耐震化してここで土堂小学校を存続させるためには、ある程度のお金が必要なんですね。お金を出すか出さないかを決めてくださるのは議会の皆さんです。議会の皆さんからするとですね、瀬戸田とか、因島とか、御調とか、美木原とか、今まで学校統合をしてきた地域の皆さん、これは本当に皆さんと同じように、地域に学校を残してほしいって思われていたと思うんですよ。ですが、子供たちのよりよい教育環境のため、断腸の思いで、しょうがないなと思ってくださったんだと思います。そういった方々からするとですね、じゃあなぜ土堂小学校だけ耐震化して残すんだっていう時に、その耐震化するお金を議会で認めていただけるかっていう問題なんです。これも大きなハードルだと思います。こういったその難しさがあるので、先程も申しましたように、私も土堂小学校がこの後も残してほしいなという気持ちもありながら、皆さんの意に反するようなお話をするのは、すごくつらいんですけども、そういう難しいことがいろいろあって、だったらどういう選択肢が他に考えられるかという、学校を統合して、そしてこれからの教育に合う校舎を建てて、一定規模の集団の中で、子供たちがこれからの社会を生きていけるような教育をするっていう選択肢もあるんじゃないかなと、そういうこ

<p>教育委員会事務局（司会）</p> <p>住民5</p>	<p>とを思っているわけです。もし聞いていただけるんだったら、その後、私がどういう教育をしたいと思っているかをお話します。一旦ここで止めますので、今私が何点かお話したことで、何か質問とかご意見があればお聞きしたいなというふうに思います。</p> <p>4 質疑応答 19:03～ 質問を受けさせていただきます。</p> <p>こんばんは。先程の話の中ですけど、以前に栗原小学校に転校というお話だったが、それは、こちらがとりあえず南海トラフが来た時に、耐震の問題ですとか、ハザードマップに入っているということで、とりあえずは栗原小学校に移転先を見つけるまでは、栗原小学校に転校ということだったので、永久的に転校という話ではなかったと思う。なので、学校区を見直すという日比崎小学校の問題と一緒にされるのは、ちょっと違うと思う。先程教育長が言われたお話だと。全く同じ気持ちになるでしょと言われましたけど、おそらく違う気持ちだと思われる。日比崎の学校区の方たちの気持ちを察すると違うと思う。あと、もし同じ気持ちにさせられるというのを言われているのだったら、その3校統合も全く同じ気持ちになると思う。やはり場所も変わるし、子供たちの環境も変わるので。それ以上の苦痛が伴うと思うが、その辺統合に関することに関してのデメリットというか、不安に思われることなどを教育長から直接お聞きしたいのと、あと、先程日比崎小学校と栗原小学校の転校が同じものだと言われていたけど、全く違うもの。あと、一番は、ハザードマップ、レッドゾーンというふうに言われていたが、そこではなくて、僕が何回も説明会に来てお聞きしたのは、一番は地震の問題、耐震の問題だと言われていた。耐震をしないといけない、いや、耐震ができないから、もう今すぐにでも子供たちの命の方が心配だから、別の場所、ここだったら千光寺の方に移すという案を出されたが、その間にもここ耐震工事できるでしょというお話をしたら、その間は、子供たちの学習の邪魔になるから、騒音がうるさいから、その理由が一つだけで、耐震工事ができないと言われていたが、千光寺に上がったので、やっぱり耐震工事は今の時点では可能だと思う。予算もそこまでかからない。比べられたらかからないそうだし、ただ問題は長く校舎がもたないかもしれないというのはあるだろうが、それはそれでまた今後考えていけばいいと思う。全く新しいものを長年使うと言っておきなが</p>
--------------------------------	--

<p>宮本教育長</p>	<p>ら、前も数十年前も立派な校舎がまだたくさんある。私は木ノ庄西小学校出身だったが、まだその校舎はまだまだ立派な、耐震はちょっと今の基準には合っていないのかもしれないが、崩れないような建物がまだ使われないまま、公民館として利用すると言われていたけど、ほぼほぼ使われていない状態で、まだ残っている状態。すごくそういった状況になりかねないので心配している。</p> <p>栗原小学校に転校しなさいと言われてたことと、今度日比崎小学校の人は来年度から土堂小学校に通いなさいということが、私は似ているなど思ったのは、やはり誇りをもっておられる。土堂小学校の皆さん、地域の皆さん。それを簡単に転校しなさいって言う、その意識の問題、私が言っているのは。日比崎小学校の人は、今度土堂小学校に行きなさいって言うのも、日比崎小学校の皆さんもきっと誇りをもってらっしゃって、いい学校にしようとして皆さん協力されて頑張ってもらって、それを簡単に、土堂小学校の児童を増やすのに、そういうふうになんか机上の上で生きている子供たちのことを、あるいは保護者のことを考えずに、簡単に動かして人数の増減を考えようとしている、その意識、それが似ているというか、その問題を私は聞きたいと思う。</p> <p>統合のデメリットということだが、先程おっしゃったように、いろいろ精神的な問題のストレスとか、新しい友達、人数が多くなったり、保護者の皆さんも知らない方と出会うことになったり、校舎に慣れるかどうかの問題、通学の問題、いろんな問題がやっぱりあるので、それは統合した時のデメリットだと思うが、それはそういうふうなストレス、みなさんのご心配をやはりお聞きして、それを軽減していくという、それが大事なのかなというふうに思う。先程、私、耐震化できるという話、私が校長だった時、耐震化できるという話、技術的にできますよというふうに聞いていて、それから、居ながら施工するということで、騒音の問題だったり、体育ができるかどうかという問題だったり、いろんな問題を当時教育委員会と話をした記憶がある。その後、今度は耐震化できないので、居ながら施工もいろんな支障があるから、とにかく安全性を確保する必要があるから、千光寺のグラウンドに上がってくださいという、そういう議論になった。これは、私が教育長になる前の話だが、やっぱり教育委員会のやり方が、皆さんの不安や心配を与えるような、そういうふうなものだったと思うので、これは反省すべきだと思うし、お詫びをしたいなというふうに思う。その上で、統合しなかった時のデメリットというのもあると思う。小規模校になってしまう、このま</p>
--------------	--

	<p>まいくと。小規模校のよさももちろんある。小規模校のよさっていうのは、子供たちの人数が少ないので、一人一人の学習の状況だったり、理解度を先生がきちんと把握しながら教えることができるという、これはメリットだと思う。これ、私もそういった小規模校にかつて勤務したことがあって、複式学級の担任もしたことがある。ですので、子供たちの人数が少ないっていうことで言うと、一人にしっかり目配りができるので、そういう意味ではいい部分もあると思う。それから、一人一人の子供たちが授業中に発表する機会とかも、大勢だとなかなか発表する機会も難しくなってくるが、少なければ発表できる機会も多くなってくるもあるだろうし、また、必然的にリーダーを務めないといけない場面はでてくると思う。あとそうですね。異年齢、大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に活動して学ぶ機会というのも作りやすくなるというような、小規模校のよさというのは私も十分分かるわけなんですけれども、ただ、これからの教育を、あるいは社会でどういう人材が求められているか考えると、小規模校のデメリットということも考えざるを得ない。今、大手の就職支援企業等がこういった人材を求めています、社会が求めていますというのをよく出しますが、大体コミュニケーション能力が上位、トップに来ている。このコミュニケーション能力というのは、ただ単に話したり聞いたりできるという力だけではない。多様ないろんな考え方、いろんなタイプ、いろんな持ち味がある多様な方としっかりコミュニケーションができる力。じゃあ、それが小規模校で養えるかというのと、ちょっとそこが不安になってくる。やっぱり大勢子供たちがいて、多様なタイプのお子さんが出て、いろんな考え方を知って、ああそういう考え方もあるんだなと、そういうタイプの人もあるんだなとか、いろんな多様な人のことを学んでいくという中で、やっぱり人にはどういうふうに話したら伝わるんだろうとか、どういうふうに仲良くなれるかという、多様にいろんな人がいるから学べる機会が作れると思う。ですから、それを考えると、やっぱり一定の規模がいる集団というのは、これから大切にしていかなければいけないところなのかなと思う。ちょっと全部お答えできたかどうか分かりません。</p>
住民	質問時間を。
宮本教育長	じゃあ、ちょっとここで終わる。
住民5	ありがとうございます。小規模校であろうと、マンモス校であろうと、コミュニケーション能力は育てることはできると思う。どこの公立

教育委員会事務局	<p>小学校であろうとコミュニケーション能力を伸ばすことは可能だと思います。それが教育長の仕事だと思う。ありがとうございます。</p>
	<p>はい。では次の方の質問をお願いしたいと思います。</p>
住民6	<p>教育長に、仕事としてお聞きしたい。今、首相から、県の教育長から某教育長まで、私物化して部屋の中で上を見ての屁理屈ばかりこねているように思えてならない。教育長の仕事は、箱作りではなく、教育を魅力とした他地域からの移住を行政とともにやっていけば、生徒数が減るじゃ、滑ったじゃという話はなくなってくる。それから、学校選択制の初期の頃、土堂小学校、長江小学校が、応募を断らなくてはならないくらい応募があった。なぜだと思うか。2点、お願いします。</p>
宮本教育長	<p>先程の長江、土堂の応募を断るくらいたくさんの方が希望されていたというお話だが、やっぱり教育の期待で、ここだったら子供たちを連れて、教育を受けさせたいという、そういう保護者の方の思い、思ったださる保護者の方が多かったからだと私は思う。</p>
住民6	<p>他地域の方は、その地域の学校は、そういうものがないと判断されたということか。</p>
宮本教育長	<p>そういうふうに言えるかどうかは、私もコメントは難しいなと今思うが、他地域の方からここに来させたいという、ここは利便性もよかったですし、ですので、そういった通わせたいと思う教育ができていた。そういう期待に応えようとする教育をみんな職員もがんばっていたので。保護者やここにいらっしゃる地域の皆さんも支えてくださって、そういういい教育を展開することができていたから、支持をいただいたのではないかと思います。</p>
住民6	<p>よその地域は、そういうのがなかったので、ここへ来られたと思う。</p>
宮本教育長	<p>今、長江や土堂にたくさんの方が支持をしていただいて来てくださったことからすると、ありがたいことだと思うが、ただ、教育長として思うのは、義務教育で、市内のそういった学校が、学校の特色を生かしながらがんばっていて、どの学校もそれぞれ素晴らしいんだと思う。学校選択制がある良さは、そういった各学校の特色を理解して、そういう</p>



	<p>特色のある教育を受けさせたいということを保護者の方が選択できる、そういう点ではいいんだと思う。ただ、やはり先程も申しましたように、人数が地域によっては減ってしまって、地域の絆、あるいはコミュニティっていうところには課題があるということを知っているから、そういったところからすると、なかなか学校選択制も、多くの方のご意見を聞きながら考えていかないといけない問題だなというふうに今思っている。</p>
教育委員会事務局	<p>それでは、次の質問を伺っていきたく思います。</p>
住民6	<p>最初の質問に答えていない。</p>
宮本教育長	<p>最初は、他地域からの移住の問題だったか。</p>
住民6	<p>はい。</p>
宮本教育長	<p>これは尾道市外ということか。</p>
住民6	<p>そうです。先進地を、校舎、ハード面だけ見に行き帰って来ている。本来は、教育、子供たちの教育で、その地域で何家族も移住してきて、人数が増えてきているのが何か所かある。そこをなぜ見に行っていないのか。</p>
宮本教育長	<p>またそういう学校を研究してみたいと思う。まだ2か月では見に行く機会がなかったから。またそういう学校については、見に行きたいと思うが、ただ一言言わせていただきたいのは、これから造ろうとしている新しい学校、これは、土堂小学校のように、県外からたくさん先生方が、この学校に行きたい、この学校の子供たちを見てみたいと思ってもらえる、そういう学校をつくりたい、そういう思い。</p>
住民6	<p>だから、存続してくれればいいではないか。</p>
宮本教育長	<p>先程の土砂災害の危険性とか、児童数の減少の問題とか、それから、尾道市の他地域での統合されてきた地域、そういったこと等から、耐震化してここにお金を出そうというふうに市議会の方で賛成を多数いただけるかという、なかなか難しい、そういう状況。</p>

住民7

先程言わせていただいたが、そもそも論の話だが、私も統廃合の問題とか、移転の問題で、土堂小学校の育友会の顧問をさせていただいて、ずっと関わってきた。まず、令和2年の話に戻ると、危ないからとにかく上に上がれという話だった。その時に統廃合の話は、白紙という話だった。そして、とにかく上に上げてしまった後に今度は統廃合の話ということで、だまし討ちのような感じで、地域住民は聞こえていると思う。そもそも論として、こうこうだから統廃合をするということを言っているのかという議論のところをだまし討ちのように危ないから上に上がれと言って送り上げて、今度は統廃合と言っているから、我々はなんとなくと言うか、はっきり納得できなくなっていると思う。ここに来られている多くの方は、そもそも論のところでは話が違っているはず。そして、今教育長が言われていたように、土砂災害という話もあった。でも、最初の頃は、耐震化できんからと一辺倒だった。ところが、だんだんと耐震化できるという話になったら、今度はレッドゾーンという、とにかく上に上げるスケジュールだけで考えて、最終的には3つの箱もの、大きな箱ものを造るスケジュールで全てが進んでいるように思う。

私は住民監査請求を行った身として、あの時に仮設校舎移転の総額費用と居ながら耐震補強ができるということで、綿密な計算をした。そうしたら、先程言ったように、市の方は、行政の裁量権ということで、居ながら耐震補強ができるということでは蹴っていない。要するに、できるということを言っているのと同じ。レッドゾーンのこと、私は詳しい資料も持っているが、一部かかっている、要するに壁を造ることによって、解消する可能性が高いということをお聞きしている。そうすると、ここに説明文があるが、その説明文が、できない、できないと書いているが、できるということなんだけどというふうにしてもらわないと、議員説明会の時においては、話が齟齬をきたしているのではないかと思う。議員さんの納得といっても、議員さんが、できんのだったらしょうがないのというふうにしりぞくような内容になっているのではないか。やはり本当のことを書いてもらわないと、議員さんというのは、正しい情報がないと分からないのではないかと思う。予算を執行するのは議員だと。私が一番思うのは、尾道市をどういうデザインで、どういう町にしたいのかということをしなして、とにかく減ったら合わせてほしいんだという話になっているからおかしくなる。尾道の町にどうやって住んでもらうのか、どうやったらいいのかというのを考えないといけない。今誰かがおっしゃったが、土堂小学校を選ぶ

ということは、何らかのメリットがあるから来ている。皆さんが例えば八百屋、いやスーパーに行く時に、何の理由で行くんですかと。生鮮品がいいから、値段が安いから、バーゲンをしているからということで行く。でも、これから都市間競争とか、これから尾道が輝く町だと言って、市長が言っているような町にするためには、外から来てもらうために、金太郎アメの学校をつくって、普通にやりますよと言って、利便性の悪いところに学校をつくって済みますかと。やはりこの場所に、このアクセスのいい場所というのは、すごく大事だということを考えた時に、どうやって町のデザインをつくるかという議論が、ちゃんとなされていらないからこんなにもめる。何点か言ったが、まず、議員さんの説明の時に、そういった話が出たのか、そして、今できないと言って嘘こっぱちをかいていると私は思っているが、できるんだと書いて説明してほしい。そうしないと、全部がミスリードになって、そうだそうだとなってしまふ。私は、その点をはっきり申し上げたいと思うので、よろしくをお願いします。

宮本教育長

千光寺のグラウンドに上がる時に、その後のことは白紙だということで上がった。その後、いろいろ今議論させていただいているところだが、もともとの、私が平成30年度に校長だった時には、耐震化できるということで進んでいこうとしていた。その後、状況がどんどん変わって行って、皆さんが不信に思われるというか、教育委員会の提案してくることについて、納得いかないと感じられたということは、これはやはり教育委員会としても十分ではなかったことがたくさんあったと思う。それは反省すべきことですし、皆さんにそうした思いを抱かせることになったことについては、これはお詫びをしたいと思う。その上で、やはり子供たちのこれからより良い教育環境はどういうものなのかというところを中心に、やはり議論をして、市議会議員の皆さんにもそのところは率直にお話していかないといけないかなと思っている。

住民7

おっしゃることは誠にそうなんだと思う。しかし、前提条件が全く違うところからこういう話になっているわけなので、議員さんにもこれは説明する必要があると思う。ちゃんと順を踏んでここまで来ているわけではない。既にスケジュールありきでここまで進んできているので、果たしてそういうことで尾道の町がぎくしゃくすることも考えたことがあるんですかということもある。よその地区がやったからどうなんだというみたいなことを助長するような書き方をされるっていうのもおかしな話であって、議員さんのこういう恰好、でもグラウンドデザ

インということに対しての議論は本当にされたのか。千光寺に上がる時でもすごく付け焼刃でやって、学校としては不適合な地区だけど、無理矢理それをして上げて、とにかく出ろ出ろと、私も令和2年の説明会に行った。とにかく危ないから出ろ、とにかく明日も地震が来るかもしれない、明日土砂災害が来るかもしれないから出ろ出ろ出ろっていう、ずっとオンパレードだった。とにかく出てから考えましょうというのが、教育委員会のポジションだった。そうした中で、無理矢理出さされて、落城したら釣った魚には餌をやらないけど、後煮て食うなり焼いて食うなりしようというのが、ここにおられる方のみんなの共通認識で思いであると思う。そんなこといいんですかと。それは話がちがうでというのが、みんなそういう思いがあってここに来ているし、ここに来られておられない方もそういう思いがずっとある。なんぼ美辞麗句で素晴らしい学校つくりますと言ったって、素晴らしい学校がここにあったのをぶち壊して、そっちだと言っても、なんとなく釈然としない。今教育長が言われたように、素晴らしい学校だったということは紛れもない。そうしたことを考えてほしい。なぜ来たのか、そうしたら尾道市外からも移住者として、そういう場所、アクセスのいいところがあると、人が住んでもらう、人が住むためには、教育と医療が、教育と福祉が一番大事。医療が大事。そうした時の一つが欠けてしまうといたらどうなるのか。町中の学校がなくなった町がどうなるのか、絶対に考えないといけないポイントが欠落している。とにかくスケジュールありきでものが進んでいるから、我々はちゃんと考えてくださいよという話をして、議員さんにもそういう情報を与えてもらいたい。そうして、みんなのコンセンサスがそうなったら、それは別に仕方がないが、でも正しい情報が伝わっていない中でこんな話が進んでいるから不信感。私はその1点。

宮本教育長

今までのやり取りの中で、スケジュールありきで物が動いているのではないかという、そういうご指摘は私も今もいただいたし、議事録も読ませていただいて、そういったご批判をいただいているということは、しっかり承知をしている。そういうスケジュールありきというふうに捉えられるような説明をしたということについては、これはちょっと改めていかないといけない。そういう反省のもと、今日は新しい、これから求められる教育というのはどういう教育なのかということができるだけこの4月5月教育委員会の中で考えて、今これが完成形ではないが、コンセプトとしては、土堂小学校でやっていたモジュールとか、土堂っ子太鼓とか、学力向上の取組とか、素晴らしいものがあるの

	<p>で、これは新しい学校でもぜひ組み込もうと、私は強い思いがある。そういった新しい学校の教育内容をしっかり議論して、スケジュールありきではなくて、皆さんにそういったあたりをしっかりお話して、議論をしていきたい。それが今日、私がここに来ている、そういう目的で来ている。ですから、スケジュールありきで物事を進めて来ているのではないかということについては、これはそういうふうに感じられたとすれば、これは反省しなくてはいけないし、改めていかないといけないというふうに思う。</p>
<p>住民 8</p>	<p>いわゆる学校数、いや児童数が減っているから統廃合対象だという話になっているが、人口動態調査を見れば、統合小学校はできた瞬間から1クラス。2クラス編成にならない。話が無理があるのではないか。2クラスをめざすということで統合小学校、そういうことで多様性だとか言って、複数の学級がつかれないからという学校が、もう人口動態調査で出ている。何か極端な移住とかがない限りは。そういった無理に無理を重ねているところを、のこれ議員説明でもちゃんとしないといけない。正しい情報を出さずして、美辞麗句でこんな素晴らしい学校ですと言っても、既に1クラス編成ということが確定している中での巨額の費用を使うということについて、今度は市民に問わないといけないし、議員にも問わないといけない。それは行政の裁量権と言うんだったら、二元性政治である議会にもその情報をしっかり届けるというのが筋ではないかと思うが、どうか。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>推計では、先程おっしゃったように、令和10年に1年生が1学級になる。新しい学校をつくったとしても。ということですよ。今実は、残念なことに尾道市の出生数というのは、ずっと1000人を超えている時代があったが、今600人を切るような時代になってきている。ですから、いずれ、今まだ統廃合の対象になっていない学校も、近い将来そういった再編を考えないといけない時代が来ると思う。新しい学校を長江中学校のグラウンド、久保中学校のグラウンドに造らせていただくが、1学級になるのではないかということだが、これは、今山波小学校が1学年2クラス規模の学校になっている。その新しい学校を造って、今度はその周辺の学校の状況を見ながら、山波小学校ももしかしたら児童数が減ってくる時代がくるかもしれない。そうなったら、新しく造った学校と一緒に山波小学校も一緒になっていくということは、可能性としてはあると思う。だから、市民の皆さんのそういったお金を使わせていただく限りには、先の先の見通しももちながらやっていか</p>

<p>住民 9</p>	<p>ないといけないと思っているので、そういった学校再編のこともしっかり視野に入れながら、当然新しくつくる学校は生かしていくわけなので、これからずっと校舎を使っていくわけなので。そういったことを考えていきたいなと考えている。</p> <p>私は、この学校を昭和30年に卒業したOB。教育長が、さっき3点ほど言った。土砂災害。それから学校の学区制の問題。それから議会の問題。この3つを言われたが、まずこの土砂災害の問題は、特別警戒区域というのはご存知か。これが何段階かに分かれているのはご存知か。5。ここは何番目だったか。5番目。1番ではなくて5番目。5番はどういう条件だったら、ここに建設可能かご存知か。だから、教育委員会は、ここが土砂で危ない、危ないと言いながら、実際どういう状況かご存知の方はいるか。誰もいらっしやらないんだろう。5段階の特別警戒区域の中で、5番目は、一定の条件を満たして、知事に申請して、知事がOKを出せば、建設可能な地域。当初、市が言ったように、レッドゾーンで非常に危険だというのは、全くのナンセンスだということだが、これではっきりした。もう一度資料を読んでもください。でも、ここで説明するなら、そのくらいのことはあなた方がきちっと頭で整理しておかないといけないだろう。オレオレ詐欺ではないが、あなた方が恐怖を煽ってどうするのか。これは、刑法233条で犯罪だ。いたずらに不安を煽るといのは。これも帰って調べてみてほしい。つまり、あなた方がここは絶対に駄目だというような不安定な地域ではない。私はOBとして、何度もこの地を調査した。県とも話をした。県もそれほど危険な地域だと思っていない。市の方は行っていない。それから、レッドゾーンは、どういう条件でかけられているかご存知か。これ議会でも何度も言っているから、頭に残っているかどうか。傾斜角30度、5メートル以上の高さがあるところは自動的に危険地域とかけている。そこで1メートルのコンクリートでブロックを積んでいても、県は自動的にかけているだけ。だから、それが危ないかどうかは、それぞれの自治体が、現地を調査してやらないといけないが、あなた方は、市のどこが発信しているか分からないが、危険だ、危険だと、その言葉だけを信じて、我々に風評被害を与えていると。関係者に。まずそれを承知してほしい。それから学区制の問題だが、私は昭和30年にこの学校を卒業したと言ったが、日比崎小学校は昭和28年開校だが、なぜ日比崎小学校ができたかご存知か。これは、当時、吉和小学校、栗原小学校、土堂小学校、この3校が飽和状態にあったので、日比崎に学校を造った。それから日比崎は一度学校を建て直したが、今日比崎小学校は、仮設校</p>
-------------	--

舎を造って8年になる。吉和小学校もがらがら、土堂もがらがら、学区制だけで見れば。仮設校舎はそのままではないか。その学区制を変更するのに何の問題があるか。私がここに在学している時も土堂小学校にきている子供たちは、土堂でそのまま卒業した。中学校は、栗原に行った子はあるが。次から、先程教育長がおっしゃったように、なんか薪で割くような話をされていたと思うが、そんなことは全くない。元に戻せばいいだけのこと。そして、祇園橋のところから通学路ということになってくると、日比崎小学校の3倍くらい歩かないといけない。長江小のところ。グリーンラインを引いたところで、車が急いでいる時にそんなところを見るわけじゃないではないか。そんなところをきちんと見るのであれば、日本から交通事故がほとんどなくなる。そういった具合に、やはり学区制は見直した上で、本当にどういう形がいいのかということをもう一度考え直すというのが1点。いいですね。それから3点目。先程から議会、議会とおっしゃっているが、これも誰に言われたのか知らないが、議会は、理事者が提案したものをこの8年以上だったか、一度も議会は反対したことはない。あなた方が本当に地域のことを考え、子供たちのことを考えて、やはりここを耐震化して、ここを残そうと提案をすれば、100%通る。議会では。今、それを理事者がしたくないから、議会に根回しをして、反対してもらっているだけ。これが実態。ですから議会のせいにはしてはいけない。尾道市は不都合な時はいつも議会のせいにする。逃げる。まあ、そのように今あなた方がベストとやってやることでも、大きな違いがたくさんある。たまたまここに給食調理場、共同調理場のことが出ている。これはもう15、6年以上前から共同調理場にしたらどうかと言ったら、食育上、絶対に駄目だと、単独調理場以外には駄目なんだと言い続けたのが、今になって共同調理場で食育する、見学ができるようにする、こんなことは10何年前に市が議会から指摘されている。温かいものは温かく、冷たいものは冷たい、中四国で単独にこだわっていたのは、尾道市だけ。中四国の市町で。そういう状況でもって、あななたちは今自分のことを通そうとして、強引に意味作るようにしているが、全く問題ない。耐震は始め絶対にできないと言っていたのが、できるというのは、市が出している。今はもう居抜きだろう。こういうふうに学びながらやる。今上に行っているわけだから。やればすぐにできる、こんなもの。ですから、こういう学校、土堂小学校のブランドというのは、陰山校長がわずか3年で全国ブランドに育てた。その陰山先生がいなくなって、土堂小学校されていたらよく分かると思うが、このブランドをつくれたか、今市長も16年になる、市長になって。教育水準は下がる一方ではないか。最初に教育

をいろいろ説明された。そんなに素晴らしいものだったら、なんでこの16年間でできなかったのか。しかも市長は教育長出身ではないか。だからそういう詭弁で住民をごまかしてはいけないし、まあ、教育長は住民と真摯に向き合うとおっしゃっているので、始めに結論ありきではなしに、本当に何が地域のため、子供たちのためになるのか、保護者や子供たちに学校が選択できなくて、才能のある子供たちを伸ばす教育をどうやってできるのか。封建時代の、この藩から出て行ってはいけないというような時代と違って、今の時代、都会の子は今どこでも選択できるではないか。ますます尾道から子供がいなくなる。優秀な子は特に。そういった点は真剣に考えていただきたい。そう思う。まだ言いたいことはあるが。失礼だが、教育長は尾道の方ではないか、出身が。なぜ分かったか分かるか。千光寺（語頭を強く発音）と言われた。地元の人には千光寺。そのこと、鹿児島ではないが、イントネーション一つで、この人は地元の人ではないなど、だから逆に言えば、外から見て尾道にとって何がベストなのか、現場におられたのだから、そういう視点でできなければ教育長の辞表を出せばいいではないか。自分の教育信念と合わなかったら。それだけ腹をもって、これだけ地域の人が言っているわけだから、尾道市も、長くなった、一つだけ言わせてほしい。どうしても統合しないといけないことは教育委員会は言っていない。三幸小学校と向島中央小学校のことはご存知だろう。あの時私も聞きに行った。地域が了承するまで統合の強制はしませんと、当時の佐藤教育長は弁明して、あれからもう8年以上になる。中央小学校には三幸小学校分の校舎と、それから調理場の数、これもちょうど造ってある。未だにあそこに関しては言わない。なぜダブルスタンダードでやろうとするのか。これだけ地域の方が反対しているのに。おかしいだろう、やっていることが。まあ、それをしっかり肝に銘じて、まずここは校舎が建てられないほど危険な地域ではないということ、耐震は可能だということ、それから学区制の問題も今5年生から6年生があっちに変われと言わなくても、次の世代まで待てばいいと、学校選択制、これでもって小学校が全国で数万校あるが、トップテンに入るような有名校、ブランド校にしていた陰山先生もフェイスブックで書いていただろう。こんな形で閉校するのは残念だということ。そういうこと。それから議会のせいにしてはいけない。議会はあなた方が提案したら、今の体制なら必ず賛成するから。これだけ断言できるから。以上。

住民10

宮本教育長、お久しぶりございます。思い起こせば、前の教育長が統廃合の問題で来られた説明会で、隣り合わせで聞かせていただいていた



たことを懐かしく思い出す。

今日は、初めて教育委員会らしい、教育長らしい言葉で、我々に少し歩み寄って説明をいただいた。3月までの佐藤教育長は、何を言ってもなしのつぶてで、一切説明会の体をなしていなかった。以前の千光寺に上がるという中で、地域で路線バスの話が、この下のほっとかんであった時に、先程から問題になっている学区の移動について、できませんかということをお願いした。一応考えておくということその時教育長は言われた。ですが、その答えはいつまで経ってもいただけなかった。本当に先程教育長がおっしゃったこと、もう3年前に聞いたかったなというふうに思う。本当に先程からいろんな方が質問されていると思う。それは、ここに土堂小学校を残したいという、その思い、その可能性はあるのではないかなということ、その思いでもって、皆さん質問をされている。本当にうちの子供たちが、20年以上前に土堂小学校にいた時、土堂小学校の歴史の中で一番少ない67名だったか、68名だったかという時代だった。ですが、今30歳を超えて、うちの子供たちは、親から見て立派に育っている。なので、うちの長男は7人の学級だった。ですが、確かに少ない人数でその弊害、デメリットもあるかもしれないが、メリットも計り知れなくあるのではないかなと思う。先程、就職の時にコミュニケーションという話をされた。私も会社の経営者として、それはごもっともだと思う。ですけれども、小学生で学ぶこと、身に付けることと、またそれから中学校、高校を経て学ぶことはまた変わってくるのではないかなと思う。前回の3月の説明会の時に、今は少人数の学校がトレンドだと言われた方がいらっしゃった。トレンドかどうかは分からないが、決して少人数であってもできないことはないと思う。そのことも踏まえながら、もう一度、本当に今日初めて教育委員会らしい、教育長らしい言葉をお聞きできたので、ぜひその思いを持って、本当に土堂小学校の校長時代、素晴らしい校長先生だったと私は思っているので、そのままの気持ちで教育長として、まだ2か月ほどだと思っているので、まだまだということは分かるが、残念ながら、この場で言うと語弊があるかもしれないが、以前の佐藤教育長に関しては、不信感でいっぱいだった。本当に早く辞表を出してくれと思ったぐらいだった。ですけれども、今回宮本教育長はきっちりと真正面から受け止めてくださっていると思うので、今のここにいらっしゃるみんな、全員ではないかもしれないが、なんとかこの土堂小学校の素晴らしい教育をこの場で残していきたいという思いでいっぱいである。今日の新しい一貫校の説明も本当に教育長の思いが入って、土堂小学校の教育が取り入れられた素晴らしい思いというのは重々分かる。ですけれども、それ

<p>住民 1 1</p>	<p>はそれとして、やはりここにそのままの土堂小学校の教育を残していただきたい。その方策はないのかどうか、それは改めてやっぱり前向きに、これだけの皆さんが何回も、先程もこの説明会、他の地区とこの土堂の地区の参加者の数、全然違う。それだけ思って、皆さん来られているのだと思う。どうかこの思いをきっちりとした形で、先程計画ありきではないとおっしゃった。いろんな方から同じようなことを言われていると思う。そういうことを踏まえて、ともかく、どういう形が一番子供たちにとっていいのか、この地域にとっていいのか、それを改めて考えていただきたいと思う。どうぞよろしくお願いします。</p> <p>ありがとうございます。私、吉和小学校の学区の者で、しかも尾道市出身ではないので、そういう校外に、土堂小学校区ではなく、尾道に長く暮らしていたわけでもないが、ちょっとその立場から一市民として質問させてほしい。土堂小学校の統廃合について、私の地元であったり、土堂以外の方とたまにお話をすることがあったが、その時にやはり土堂小学校は利便性が高いということで、それで選択制を使って来ているという声をすごく聞いた。例えば、高須小学校なんて本当にすごく広大な学区の中の本当に端っこにあるので、本当に子供たちが朝6時台から集団登校して行っていると。それが子供たちにとってかわいそうだから、駅からずっと行ける土堂に入れているという声もお聞きする。あと、駅のすぐ直下結というか、すぐ近くにあるということで、私たちの学区、御調だったり、因島だったり、そこから全てバスなどで学校が選べるという、子供たちの選択の一つになるということは、すごく土堂小学校のこの利便性というのは、本当に価値のあることだと思っている。</p> <p>あとそれから、県外出身者として、本当にこの町というのが大林宜彦監督であったり、本当に文化の町、映画の町ということで、あこがれられている、そう見られているという、そう声を地元の出身地のところや周りの人からすごく聞いたし、私もそういうこの町の景色というか、この独特のこの景観の中、美しさ、歴史的な文化を尊敬してこの町で暮らしている。その景観の中でやはりアクセントとなるこの小学校の建物というのは、本当に尾道の文化資源として素晴らしいものだと思う。これを80年という耐震性ということで、壊してしまうという町になってしまうのか、それともこの町を今後も尾道というブランドというか、意思を持ってこの町の良さを残していく、そういう姿勢が尾道市にあってもいいのではないかと、そういうご提案をしたくて、意見をさせていただいた。そういう尾道の町はこういう良さがあるという、そういう</p>
---------------	---

意思であったり、あと何よりも住民の皆さんがこんなに集まっていたり、こんなに声があるということに対して、ちゃんと応える、そういう行政の姿勢があるということが、尾道の信頼感というか、県外からの移住者であったり、少子化に関して、子育て世代が、この町に住みたいと思った時に、きちんこの町は市民の声に応えてくれる、そういう町であるという、そういう姿勢にもなると思う。なので、ぜひここは、議会に承認がもらえないとか、そういうことではなく、本当に土堂小学校というのは教育の面ということだけではなく、町づくりとか、観光とか、いろんなものに直結する視点で判断するべきだと思うので、そういうところをぜひご検討いただきたいと思う。

住民12

私は先程の教育長さんから話が出ている市議会議員をしている地元の町内会長をしている〇〇である。議会で説明があるので、詳しくは触れないが、まず当然聞かれていると思うが、土堂地区の住民のアンケートでも存続を望む声が多数。そして皆さん方のいわば同じような教育委員会の機関である学校運営協議会も異論を出している。今日ここにたくさん来られている方も僕の想像ではほとんど土堂小学校をこの場所で残してほしいというふうに思っているのではないかなと思うが、皆さんいかがか。そういう地域の状況。先程教育長さんは3点、統合する必要があるんだということを述べられたので、私1回だけ聞く。この3点について。あとはまた議会で聞くし、説明会でも質問したいと思うが。まずどちらが危険区域や警戒区域にあるかということで、私は議会質問するのに教育委員会から資料をいただいた。紹介したいと思うが、今警戒区域に入っている小学校は60数%の小学校が警戒区域に入っていると。危険区域に入っているのは、40数%。ですから、先程来出ているが、土堂は、ほんの一部が警戒区域に入っているという程度なので、これをまともに受けると、他の学校もどんどんどんどん移転しないといけないということになるのだが、その点についての整合性は、あなたはどのように思っているのかということをもっと聞きたい。それから2番目に言われたのは、児童数の減少ということで、教育長さんの説明の中では、栗原小学校に移転する第1次案の時のことを思って、日比崎小学校区の方は土堂に行けと言ったら、その心情を思えば大変だということだったが、先程質問されたように、日比崎小学校は隣接している学区。隣接している学区。栗原とは違う。もともとは土堂小学校区だった。私先程紹介したように教育委員会から今現時点で、天満町、三軒家町、そして栗原東西1丁目から何人の人が通っているかと資料をいただいた。22名だったか23名だったか通っていると。今1割以上が既

に日比崎小学校区から通っている。これはどういうふうに見えるかということと学区の問題。それから選択制の問題を言われた。ただ、40名いた学校選択制の応募数が、募集数がいきなり5。これはそんなに極論にしなくても、多少5名から10名に増やすとかいうようなことにすれば、あなたが危惧しているいわゆるいろんな学校からの土堂に行くからいろんな小学校にデメリットが生じるということもあるのではないか。その点についてお応えください。それから3点目、耐震化についても質問された方がいた。はっきりしていただきたいのは、技術的にこの耐震化できるのかどうか。私は耐震化できると説明されたというふうに理解しているが、その点について明確に答えていただきたいし、先程紹介した資料の中で、土堂小学校の校舎の強度、耐震性はIS値という数値で示される。これは吉和小学校とか、今あった、もう耐震化が済んでいるが、あったところのIS値とそう遜色ない。古い時代にできているけど。私は最初の説明会の時には80年経った校舎については、文科省からそういうふうな指導があるというのは、第1回の説明会の時には説明はなかった。今回また新たに出てきたと。それから少し誤解があると思うが、私どもは、この土堂小学校に新しい校舎を造ってくださいということを言っていない。先程新しい校舎を造ったりすると、そんな費用は市から認めてもらえないのではないかとこのことを言われたが、そのところはちょっと訂正をしていただきたいと思うが。今多くの方が望んでいるのは、この土堂小学校区に新しい校舎を造ってくれというのではなくて、耐震化をしてくださいということなので、新しい校舎を造ってうんぬんと、土砂災害の危険が多いところでそういうものはできないと、これはもうおそらく間違いだと思っているので、その点は訂正をしていただきたいということ。その3点について、ちょっと教えてほしい。

宮本教育長

まず、新しい校舎をここに建てるという、それではなくて、耐震化するのでもかなりのお金がかかる。耐震化しても、そう遠くない将来、もう限界が来て、新しい校舎を建てるということになっていくと思う。だからそういうことから考えると、耐震化でもかなりのお金を要するというふうに認識している。それから、土砂災害の警戒区域の問題で、市内の他校もそういった警戒区域にかかっているという、その整合性はどうかというお話だったが、おしゃったとおり多くの学校でかかっているわけだが、方針として、最近の集中豪雨だったり、雨の降り方が激しい。ですから、いろんなところでここで崩れると思っていなかったところで崩れて、尊い命が失われるというのが毎年のように報道

されている。先程いろいろと教えていただいて、私も勉強不足だと思って反省したが、そういったその、何て言うか、やはりリスクがあるところに新しい施設を造らないという、そういう市の方針を受けて、残念ながらここに新しい施設を造るのは難しいという話を申し上げた。それから児童数減少の話だが、日比崎小学校区から今22名が土堂に通っているということをおっしゃった。これ学校選択制を利用されたり、兄弟が学校選択制で通っておられたら、兄弟は土堂小学校に通えるという制度が残っている。それで通ってらっしゃるということだと思う。40をいきなり5という数に減らすということになっているが、最初の頃にも申し上げたが、学校選択制については賛否両論で、いろいろとご意見がある。学校の特色、土堂のように学力をしっかりとつけて、地域の方に支えられて、本当に心豊かに成長するということに魅力を感じられて、たくさんの方が土堂小を支持してくださった。選んで他の校区からも来れる、これはメリットだったと思う。そうしたことであったり、あるいは、これは土堂ではないと思うが、おじいさん、おばあさんがいらっしゃって、今住んでいるところに自分たちお父さん、お母さんも働いていらしゃると、誰もいない家に帰らせるよりは、おじいさん、おばあさんがいらっしゃる家の方に帰らせる方がいいという判断で、だったら学校選択制を利用して、おじいさん、おばあさんが住んでいらっしゃる近くの学校に入学するとか、いろいろそのご事情があると思う。ですから、そういったご事情を受けて、選べるというのは、この学校選択制の良さだと思っている。ただ一方で、何回も繰り返して申し訳ないが、地域の絆が失われていたり、コミュニティが難しくなってしまうという、そういう地域も事実あるということを知ると、なかなかまた土堂小学校の学校選択制を増やすという、そういうことはちょっと難しいのかなど。今市内でいたい学級数が増えない範囲で5人とか10人とか、学校ごとに枠が決まっていると思うが、そういった体制を当面はやっていくという状況なのかなと認識をしている。それから耐震化の技術的にできる問題だが、私も校長の時に認識していたし、今でもそう思っているが、やっぱり尾道の教育を責任ある立場の者としては、皆さんがおっしゃるのも正解だと思う。教育委員会がお示している案も正解なんだと思う。いろんな正解がある。その正解の中で、何を優先的にと言いますか、何に重点を置いて判断していくかという問題で、皆さんは地域を大切にする。地域に学校を残すということに重点を置いてご意見を今いただいているわけだが、私は、よりよい教育環境というのはどうなのかという観点を重視してお話をしている。だから、何を重視するかということに、そこにずれと言うか、そういうも

<p>住民12</p>	<p>のがあるというふうに思って聞かせていただいているが、いかがか。</p> <p>最後に言わせていただいて、先程言ったように1回だけなので、後は聞かないが、議会でしっかり聞く。日比崎の学校を含めることについては、明日から来年からすぐにしなさいというようなことをしなくてもよいと思う。今お答えがあったので、そのことを基にまた6月の議会でも、また議員の説明の中でも聞かせていただきたいと思う。たくさん聞きたいことがあると思うので、私はこれでやめとく。</p>
<p>住民13</p>	<p>はじめまして。西山手東の町内会長をさせていただいている〇〇と申します。私、4年前から町内会長をやらせていただいて、ちょうどこの土堂小学校は西山手東、東山手西の間にあるので、ちょっと分かりづらいと思うが、ちょうど通わせていただいている小学校の生徒とかが住んでいる地域になっている。自分が引っ越してきたのが、まだ9年前なので、諸先輩方が先程言われたように、すごく勉強されている方がいらっしゃるので、ちょっと今日は黙って聞いておこうと思ったのだが、ただ地域で住まさせていただいている者の声を聞いていて、この山手区域というのは、非常に高齢者の方が多く住まれている。学区の中で、いろんな生徒が通われているが、ただお年寄りの方が子供を見守って通われている、すごい交流が、今の世の中で老人と小学生が交流を交わす部分というのが非常に少なくなっている中で、僕としてはそういう風景が非常にほほえましく思って見ていたが、ただ今仮校舎の方に移られて、お年寄り方が非常に元気がなくなっているのが、すごく僕は残念で、その観点からすごく残念に思っている。コミュニケーション能力を先程言われていたが、学校内でのコミュニケーションというのも非常に大切だと思うが、他年齢、他世代とのコミュニケーションというのも、人を培っていく中で非常に大切なことだと私は思っている。なので、やはり地域との連携というのが、非常に乏しくなっていると僕は思うが、隣の家の人顔が分からないとか、そういう世の中の中で、そういうコミュニケーションが残っているところをどうか残していただく方向をちょっと考えていただきたい。先程教育長さんがおっしゃられていたように、スケジュールありきではない、反省していると言わせていただいて、非常にありがたかったが、この書いてあるスケジュールがもう先程あったので、ちょっとそれを反省していると言われたからには、一端白紙に戻していただいて、考えていただくということできればお願いしたいなど。以上。</p>

<p>宮本教育長</p>	<p>高齢者の方がお子さんを見守ってくださる。私も校長時代にうずしお橋のところで、朝子供たちに挨拶をしていたが、その時も地域の方が毎朝声をかけてくださる。非常にありがたいことだなと思って感謝しているし、今でも感謝をしているところ。また他の土堂のいろんな校区の中で子供たちをこう温かい目で見守ってくださっている方々がたくさんいらっしゃる。本当にそういう中で、土堂小学校に登校してがんばっている姿、本当に素晴らしいなと思っている。先程のスケジュールありきという話だが、今日はそのスケジュールの問題よりは、どう言うのか、より子供たちの教育環境として、より良いものは何なのかという視点で提案をスライドで申し上げた。皆さんの方からは、ここに残したいという強い思いを聞かせていただいている。ただ私が気になっているのは、千光寺の仮設校舎をこの前私も行って、仮設校舎を見せていただいて、ちょうど私が3月まで校長をしていて、三原に異動して、その後移っているわけなので、初めて見た。この前。子供たちも私のことを覚えてくれていて、「前の校長先生だ。」と言って、たくさんの子供たちが私のところに来て、「今こうしてるんよ。」という話をたくさんしてくれた。本当にうれしく思った。スケジュールありきではないが、今の仮設校舎でずっと過ごさせるとするのは、私としては非常に忍びない、そういう気持ち。ですから、どこかの時点では、やっぱり正式な校舎と言うか、きちんとした校舎の教育環境の中で、やっぱり教育を受けさせたいと、それはある。ただ、何とかより良い環境をと考えた時に、どういうふうにするのがいいのかということは今考えている。決してスケジュールありきで考えているわけではなくて、子供たちのより良い教育環境をつくるにはどうしたらよいか、そういう視点でこれからも考えていきたいと思っている。</p>
<p>住民13</p>	<p>ありがとうございます。よろしく申し上げます。</p>
<p>住民14</p>	<p>土堂在住の〇〇と申します。よろしく申し上げます。今日の説明会全体ということでよろしいか。スライドの6枚目の検討にあたっての考え方のところで、安全性の確保と校舎の耐久性と適正な学校規模の確保と3つ挙げられている。この3つ、いろいろ質問があったところかなと思うが、まず安全性の確保ということは、土砂災害も非常に危険だが、前回の地域説明会の時に、1年生の孫が1時間をかけて思い荷物を下げて、あの長江の通りを歩くのは耐えられないとおっしゃった方がいらっしゃった。涙ながらに。そういった方の声はなかなか議事録では届かなかったかなと思うので、もう一度繰り返させていただいた。通学</p>

が長くなることによる危険、交通事故に遭いやすくなる、それから犯罪にも遭いやすくなる、こういった危険性、毎日さらされるという状況をもう一度考えてみていただきたいというふうに思う。それから2点目の校舎の耐震性について、これ築80年が危険だと言われているが、これ文科省の根拠がよく分からないので、もし根拠があればお示しただければと思う。築80年がなぜ危険なのか。3点目。適正な学校規模の確保。尾道市教育委員会は、より良い教育環境を確保するため、1学年複数学級を掲げているというのは、いつ頃掲げられて、何を根拠に掲げられているのか。こちらの方を教えてください。

宮本教育長

まず1点目の長江通りのことだが、私も議事録を読ませていただいて、長江通りについては、皆さんがすごく心配をされているということは承知していたので、教育長に就任して、今年4月3日が月曜日だったのだが、3日は辞令交付があったので行けなかったが、次の日の4日に、朝、私、西御所から長江中学校に子供の登校時間に歩いてみた。皆さんがおっしゃるように、やっぱりその時間というのは、一方通行になっている。北から南に降りる車しかだめですよ。ただ、そこに住んでいらっしゃる方は許可を得て、こちらから北に行くことができるということを知っていたが、どんな状況かなと思って、何か所かで立ち止まりながら、通行量とか、道の狭さとか、歩道の状況とか、電信柱が出たりとか、いろいろしているのを見た。本当に議事録で皆さんが心配なさっているとおり、ちょっとこれは皆さんが心配されるのもごもっともだなというふうに思った。その後もう一回歩いて行った。今度は下校の時の状況を見たし、あと、別の徒歩でない手段で行くとしたら、路線バスだと思うが、尾道駅7時48分発の路線バスに乗って、北高入口で降りたが、結構高校生が乗っていて、座席はほぼ埋まっている状態。この時間帯というのは。だから、ここに小学生がプラスで乗るというのも、ちょっとどうかなという思いももったが、まずはそのあたりの状況把握をしっかりとらせていただいて、路線バスを使うにしてもお金がかかることですし、まずは人数であったり、お金であったり、それから運行状況であったり、いろんなことを把握して、まず資料を作って、まずはいつているところなので、決してお子さんが西御所のところから、私の足でも50分くらいかかった。45分から50分くらいかかったと思うので、西御所U2の橋から。ですから子供たち、1年生だったら1時間くらいかかるかなと思うので、やっぱりそれは、徒歩に替わる安全な交通手段というのは考えていけないといけないなという認識でいる。



石川庶務課管理 係長	<p>すみません。それでは、校舎の築80年の考え方について、簡単に説明させていただく。築80年を超えたら危険というのが必ずついてくるわけではないが、この耐久性の考え方で80年を超えたものを延長しないという根拠には、文科省から従前の建物は約40年を迎えた時点で建て替えを考え、整備の方向性、長期的なプランを考えるというような方向性で考えていたが、学校施設、橋とか道路とかを含めて、高度成長期に建てたものが多数あるので、一度に建て替えを行った場合には、費用が急にポンと増大するというようなこともあって、今までは築40年を迎えた頃で建て替えを検討していくという考えのものをまずは中間的に大規模改修を行い、築80年まで校舎を使うというような方針が示され、全国的にそういう返しを含めた長期的な計画を組んでいくという指針が示されているところ。そういう考え方のもと、築80年を迎えた時は、建て替えをしていくという文科省の考え方があったので、我々がこの地区の建て替えを考えていく中で、築80年を迎えた学校がある時には、改築というようなところを考えていくということを参考にしながら全体的な検討をさせていただいた。</p>
三浦学校経営企 画課長	<p>3点目の適正な学校規模の確保ということで、1学年複数学級の根拠だが、これは平成23年12月に尾道市教育委員会が策定しました尾道市立小中学校再編計画というのがあって、その中に適正な学校規模の確保ということで、複式学級の早期解消と併せ、1学年複数学級化の推進ということは記載されている。また、それよりも一つ前になるが、平成14年11月29日に尾道市立学校通学区域審議会という審議会があって、この中で、尾道市立小中学校の適正配置及び通学区域についてという答申がある。この答申の中で、学年の適正な学級数は複数学級であるという答申をいただいている。</p>
住民14	<p>何か根拠があってそうなっているのか。</p>
三浦学校経営企 画課長	<p>全てについて解説するということは難しいが、簡単に言うと、まずこの審議会が答申された理由だが、まず学校教育法施行規則の中での適正な学校規模が定められているということ。</p>
住民14	<p>今、令和5年。平成23年の答申を根拠に、令和5年で更にそれを続けるということであると理解した。一方で、少人数教育のエビデンスというのはたくさんできている。先程もお話があったが、少人数教育、トレンドというのではなくて、エビデンスが蓄積されていると考えてほしい。詳しくは少人数教育の経済学という本があるので、ぜひご覧いた</p>

<p>宮本教育長</p>	<p>だければと思う。教育長、先程大人数教育の方がコミュニケーション能力が高まるというようなお話をされたと思うが、その根拠は何か論文とかがあるか。</p> <p>平成27年1月27日文部科学省から公立小学校、中学校の適正規模、適正配置の手引きというのが出ているが、この中で小規模校のメリット、デメリット。それから、一定の規模の教育、学級での教育のメリット、デメリットも載っていて、やはりコミュニケーション能力が高まったり、それからまたコミュニケーション能力だけではなくて、多様な見方・考え方に触れる機会が多いわけですね。そういったもののメリットですとか、あと人間関係の面で言うとクラス替えができるっていうことで、より広く、多くの子供たちと混じり、交流して、いろんな社会性が身に付くとか、あとは、たくましくなるというか、これは小規模校のデメリットというふうに書いてあるので、私は、ん？と思うところもあるが、先生の依存性がちょっと高まりがちだと書いてある。小規模の場合は。どうしてもアットホームな関係の中で教育が展開されていくので、それはそれでいいことだが、一方でやっぱり先生との距離が近くなる。40人35人、子供たちがいる中で、多くの子供たちの中でもまれて育つということは、ある程度精神的にもタフになったりとか、少々のごことは許せたりとか、いろんな人がいるなというふうに流せたりとかいうことも必要だと思うし、そういった人数が多いことでのメリットの方が、私としては、これを読む限り強いのかということも思う。</p>
<p>住民14</p>	<p>先程、教育長がおっしゃったようにリーダーを務める回数が増えてくるというのも少人数教育のメリットだと思うし、先程ご紹介した本には、自ら学ぶ力とか、やり抜く力というのが、少人数教育の方が上がるというようなエビデンスが示されている。論文で。ですので、先程ご紹介いただいた教育を進めるのであれば、むしろ大人数教育よりも少人数教育の方が適しているのかなというように思った。先程ご紹介いただいた教育というのは、ずっと長くしゃべっていただいた教育の内容だが、その教育は大人数じゃないとできないというお話が途中であったが、ぜひ今の土堂小学校のある状態の中で、その教育は進められるかなと思うし、箱ありきという話もあったが、常石ともに学園 っているのが、隣の福山市にある。あそこは箱ありきではない。常石小学校の跡地を利用して新しい教育をやっているということで移住者も扱って来ているという状態もあるので、そういったところも参考にしていた</p>

<p>住民15</p>	<p>だいて、ぜひ少人数教育っていうのを推し進めていただいて、できれば子供や保護者が学校を選べる、子供の個性を生かして学校を選べるような尾道市にしていただけたらと思う。よろしくお願いします。</p> <p>ありがとうございます。昨日も保護者の説明会に出席させていただきました。昨日の話の中で、教育長も、今の仮校舎の教育が、子供たちにとってよりよいものではないので、少しでも早くそこから脱皮させてあげたいというふうなお話をいただいた。今私たちは、ここに学校を存続させたいっていう思いで、やはりそれは、今の子供たちにとって、1番よりよい教育環境というのが、仮校舎から一刻も早く元の土堂小学校のこの地で1日でも多く学ばせてあげたいという、その思いでいっぱい。教育環境で申しますと、ここの利便性、駅に近くて、利便性の話もあったが、それプラス、やはりこの場の力が素晴らしいと思う。123年の伝統ある土堂小学校。この伝統が、学校が統廃合してなくなってしまふってことは、どんなに残念なことか。ここでずっと123年も教育を受けてきたたくさんの人たちの思いが、たくさんここに詰まっている。この目に見えない思いのある校舎で、この地で一刻も早く、今仮校舎にいるかわいそうな子供たちをこの学びの場で一刻も早く学ばせてあげたいというのが、私たちの望み。本当に学校を残したいっていうか、今の教育長と同じで、よりよい教育環境というのが、子供たちにとって何であるか考えた時に、今一番思えるのが、まずこの場を今子供たちが上がっている時に耐震化して、そしてここで学ばせてあげたいということ。この地で土堂小学校の卒業生である大林監督が、子供たちに心を込めて語ってくださったことや、100周年の時に、ここにいらっしゃいます先程お話をいただいた会長が一番よく分かっていらっしゃると思うが、その時に土堂小学校出身、卒業生の皆さんが集まって、土堂小学校の思いをみんなで共有して、在校生とともにお祝いして、その場がこの地。その思いが詰まったこの場で、1日でもやはり仮校舎の子供たちを学ばせてあげたいという思いが強くある。</p> <p>もう一つ、80年以上の鉄筋コンクリートの件だが、前の説明会の時にも、その話が前教育長からあったので、私もちょっと専門家の方に問い合わせた。広大の教授である〇〇先生、そしてもうひとつ、〇〇先生から回答いただいているので、ちょっと私覚えきれないので読み上げさせていただきます。「80年以上前のコンクリート小学校は、近年、東京では、銀座泰明小学校、日本橋常盤小学校など、土堂小学校と同時期のものがいくつも耐震改修されて、引き続き小学校として使われている。コンクリートの劣化は、土堂小学校も80年前のものとしてはほとんど</p>
-------------	--

どない。戦前のコンクリート小学校は、地域の建築文化遺産として、特別に東京の区民に愛されている。銀座泰明小学校などは、地震の防災拠点として役割を担っている。土堂小学校が耐震改修されれば、現在のしまなみ交流館が高波や液状化で被害を受けた時も、防災拠点として地域の人々の命を守ることになる。そして、土砂災害については、コンクリートの建物は、木造のように土砂で流されることはないので、北側に入り口のない土堂小学校は、急斜面の石垣が北側にあるが、土砂災害でも危険防止の役割を果たす建造物である。」っていうふうな回答をいただいた。戦前に施工した鉄筋コンクリート造りの小学校で、耐震改修され、現在も使用されている小学校の事例ということで、これも具体的にいただいているので、読み上げる。もし必要であれば、教育委員会の方にも提出したいと思うが、土堂小学校は昭和11年の鉄筋コンクリート造り。これからここに上げていく小学校のことをお話してみる。1番は、校舎を全面的に保全し、現在も使用しているものとして、東京の中央区銀座にある泰明小学校。こちらは昭和4年建設で、令和4年に耐震補強をして、未だに学校として存続している。東京都中央区日本橋にある常盤小学校。こちらは昭和4年建設で、平成9年に耐震補強が実施されている。あと、東京都港区にある高輪台小学校。こちらは昭和10年建設で、平成17年に改修、耐震補強されて、未だに学校として使われている。黒門小学校、東京都台東区。昭和4年建設で、令和元年に改修、耐震補強されて、未だに使われている。そして、東浅草小学校、東京都台東区。こちらも昭和3年建設。令和4年に大規模改修が実施されている。そして、2番として、校舎の主要の部分を保存し、現在も使用しているものとして、東京都千代田区にある九段小学校。こちらは大正10年建設で、平成30年に外壁や内部の一部を保存して建て替えている。こういう事例がたくさんある。なので、教育委員会さんが、80年経ったコンクリートの建物が、学校教育にふさわしくないというのは、全くもって間違いだと思う。そして、私たち特に建物っていうのは、鉄筋コンクリート造りで、本当に戦前の最先端のデザイン、モダニズムのアールドデコという特別なあの時代の、本当に私たちが残していかなければいけない建物であるにもかかわらず、これを廃校にしてゼロベースで新しい学校を建てて、新しい教育をするっていうのは、本当に考えられないことだと思うので、先程から皆さん、ここにお集まりの皆さんの気持ちは一つだと思う。本当に一刻も早くここを耐震化して、耐震化できるっていうのはもう分かり切っているので、市長さんもなんかここに建物を残して、地域の皆さんから意見を聞いて、ここを何か使っていきたいというふうなお話を新聞で読んだが、ここを使いた

いってというのは耐震化できる。耐震化して使うっていうことだと思う。耐震化して使うのに一番相応しいのは学校教育の場だと思う。ここを学校教育の場ではなくて、観光の施設に使われようと、もし仮にすることになるのであれば、本当によその観光地と同じで、尾道の優しい日常風景が、ここにある土堂小学校が、ここにある子供たちの声が、商店街や駅周辺に元気な子供たちの声がある日常風景が、本当に今遠くから尾道の優しい日常風景を求めて、観光客の方々が皆さん来られていると思う。町づくりの観点においても、絶対にここは、尾道市全体の中でもなくてはならない教育施設がここだと思うので、それが尾道のランドマークでもあると思う。ぜひぜひ残していただきたいと思うので、3点検討の項目に挙げていただいていたが、80年のところは、こういう現在実際東京で教育をされている学校がたくさん残っているわけなので、それを事例として考えていただきたいと思う。今やはり日本全国で大切にしないといけないことは、壊すことではなくて、残しながら、そして蘇らせながら作っていくっていうことだと思う。それを尾道市は残すということをもっともっと真剣に考えて、取り組んでいただきたいと思う。ここにいる皆さんは、土堂小学校を本当に残したいという思いと、今仮校舎にいる劣悪な環境の子供たちを何とか1日も早く伝統あるこの地に返してあげたいという思いでいっぱいだと思うので、ぜひぜひ、新しい教育は、ひとまずここに返していただいてから、しっかりと研究して、学んでいただいて、時間をちょっとおいてもいいのではないかと思う。教育委員会の皆様ももっともっと勉強していただいて、それを学校の先生方に実際に学んでいただくには、もっと時間がかかると思う。だから、今のタイムスケジュールで進めるのは、本当に問題があると思う。先生方も大変な負担だと思うし、その負担の中で教育を受ける子供たちもやはり大きな負担やストレスがかかってくるのは、もう目に見えていると思う。ですから、ぜひぜひ立ち止まって、もう一度尾道のよりよい教育環境は何なのかを、しっかり皆さん建設的に意見を戦わせながら、もう少し時間をおいて検討してもいいのではないかと思う。それを本当は今日皆さんにここで依頼したいところ。すみません。長くなった。

住民16

先程来、今の土堂小学校は、80年だから耐震化しても先がないという言い方を随分されているが、つい最近できたBank、住友銀行の跡、あれは80年。あれはどういう意味で造られたのか。80年経ってこれ以上使い道がないとか、今言われていたが、耐震化があるかないかも分からないまま買い取ったわけだから。そういうふうにしな

	<p>修して何年使うか分からないと。80年経ったんだから後先がないということか。市長がやられたことは間違いだというふうに今教育委員会はお考えか。それともう一つ、急傾斜地の問題で、土堂小学校にも3つくらいあると。先程から教育長も、子供たちがいつ事故に遭うか心配でいかんというふうに言われていたが、これ土木に相談したことはあるか。これは教えてほしい。土木の方へ、急傾斜地があるんだけど何もかならんのだろうかというふうなことを、教育委員会として過去に相談したことがあるかどうか。これは教えてほしい。それと最後にもう一つ、これも聞かないといけないが、三幸小学校の件と同じで、この土堂小学校には統合するかしないかの決定権は誰がもっているのか。三幸小学校の場合だったら、三幸小学校がもっているわけだから。それを習うということになれば、土堂小学校にも当然統合するかしないかの決定権があってもいいと思うが、これはどういうふうに思われているか。以上。</p>
宮本教育長	<p>B a n kの話が出たが、B a n kはどういう経緯で今があるのかは、私勉強不足でよく分かっていないが。</p>
住民16	<p>B a n kは、市長が買われたのは、文化の拠点づくりというふうに非常に曖昧な言い方で買われた。それを早急に耐震工事をやって直して、もうオープンしている。それは、築80年の建物。これ耐震化して今使っている。耐震化しても先がないというふうな考えは同じでないと、おかしいのではないかと聞いている。</p>
宮本教育長	<p>おっしゃることは、そうだなと思って今聞かせていただいた。ただ、耐震化の問題は、技術的にはできる。耐震化してここに先程おっしゃったように土堂小学校の子供たちをまたここに戻して、教育するということもできる。ただ、その選択肢と新しい学校を統合して新しい教育をする選択肢を比べた時に、じゃあどちらがより良い教育環境なのかなという、そういう判断になると思う。耐震化して、ここに子供たちを戻して教育をするということだが、やっぱり1番の問題は、人数が少なくなってきたという問題だと思う。先程からメリット、デメリットの話を見せていただいたが、やっぱり勉強だけではなく社会性だったり、人間性だったり、いろんなトータル、いろんな人間の力、私、学力っていうのは人間のたくさんもっている力のうちの一部だと思っているが、ですから、もちろん学力を付けていくのは大切なことだが、学力以外にも大切なことはたくさんあると思う。そういったものを身に付け</p>

	<p>るのは、小規模だったらできないかと言うとできると思うが、やっぱりこれから他の人たちと知恵を出しながら、考えを交流しながら、新しい未知なる課題にどう適応していくか、コロナが来てみんな動揺したように、どうしたらいいんだろうということは、これからもきっと起こり得るそういう世の中。だから、そういった未知なるものへの対応力を付けていくには、やはり、いろんな見方、考え方、感じ方に接していくということはやっぱり重要だと思うし、いろんなタイプの人間、いろんな持ち味のある方、いろんなところを尊敬し、認め合っていく、そういう人間性を身に付けていくっていうことからすると、やっぱり少人数のよさもあるが、ある程度の規模の集団での教育っていうのは妥当ではないかというふうに思っているの、耐震化できるし、技術的に戻そうと思えば戻せるわけだが、それも一つの正解なんだろうけど、もう一つのこちらの方を教育委員会、私としては、そちらの方がよりこれからの時代を生きる子供たちにとっては、より良いのではないだろうかと考えているところ。</p>
住民16	<p>今のグローバルでは、もう平均教育というのをやっているのはほとんどない。算数も国語も音楽も均等にできる子はできる子であってということではなくて、今私の孫は2人いるが、好きなことだけやれという教育。それがグローバルだと今なっているが、今教育長が言われたのは、やはりちょっと古いのではないかと思う。まあそれはそれで置いて、耐震化じゃなくて、急傾斜地の問題はどうか。土木の方へ相談されたか。</p>
宮本教育長	<p>教育委員会には、校長の時に相談していた。直接校長が土木にということは、行政的な立てりではないので、やっぱり学校の施設について、あるいは、学校の危険な箇所等については、教育委員会に相談するというのがルールですので、教育委員会に相談していたということ。</p>
住民16	<p>間違いなく教育委員会として土木に、急傾斜地の件について、防止の造ってくれというふうに要請をしたということか。</p>
石川庶務課管理係長	<p>今検討しているというか、我々もここに耐震化するのを検討するにあたりまして、あくまでこの敷地内に特別警戒区域が発生しているということは分かった。それを解消するために、何ができるのか、どのような方法があるのかということは、設計会社を通じて検討したことがある。今言われているは、敷地内であれば検討したことはあるが、大き</p>

<p>住民16</p>	<p>い傾斜地と言いますか、周辺地域につきましては、詳細な検討はしたことはない。</p> <p>なぜ土木ではなくて、直接建設会社に言うのか。当然子供の命を守るのであれば、一刻も早くやらないといけない。土木に言えばすぐにやってくれる。それは、教育のことだからすぐにやってくれる。それも本当に言ったのかどうかも疑わしい。それと最後の1点、統合するにあたって、向島中央小学校、三幸小学校の件のように、三幸小学校は、保護者、地域がノーだと言ったから、未だに8年間統合されていないが、そういうふうな選択権は、土堂小学校にはあるのでしょうかという、この件について、答えてほしい。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>三幸小学校の件だが、三幸小学校の校舎ができたのが、確か昭和の終わりだったか。61年。向島中央小学校との統合の話が出たのが、平成23年。ですから、まだ30年経つか経たないか、建てて。まだ校舎も新しかったということもありましたし、それから、三幸小学校の児童数もそこまで減ってはいなかったということと、高見小学校も同じように向島中央小学校との統合の話があって、児童数から言うと、あんまり高見小学校も三幸小学校も変わらないような状況の中で、なぜ三幸小学校の皆さんからすると、なんでうちだけが統合しないといけないのかというような話になったということも聞いている。</p>
<p>住民16</p>	<p>その向島中央小学校を建てる時は、統合するという条件で建ったのではないか。それはもう統合するだろうという見込みで建ていったわけか。それだとおかしいことになる。今度やろうとする3校統合。新しく校舎を建てるけれども、来てくれるもんだと思って建ったけれどもということになる。それと同じだと思わないか。そういうのを現実的にやっておられるのだから、あれは間違いでしたから、この度は長江、土堂、久保、全部来てもらうのは困るというふうなことを強制的にやられるのもおかしいのではないかというふうに感じている。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>三幸小学校の統合をしなかったというのは、もちろん地域の方、保護者の方の反対というか、それもあったのは承知しているが、その時と今の状況というのは、ちょっと違うのかなというふうに私は思っていました、何が違うかって言うと、そこまで校舎が、三幸小学校、校舎がまだできて30年なるかならないかの新しいきれいな校舎だった。</p>



住民16	それは校舎の問題じゃない。校舎が20年、30年だということが分かった上で統合しようとしたのではないか。そこは調査しなかったのか。調査しないままに統合するんだということにして、大盤振る舞い。ドーンとこの向島中央小学校を造って、あと統合してくるんだから、給食室も造り、部屋もどんどん造ってやったわけでしょ。それはそれで見越してなかったのか。それは三幸小学校が校舎建ってまだ30年、40年だということを見込みを調査もしないで統合することを進めていったということになるが、それはおかしいのではないか。
住民17	結局先程から同じ。タイムスケジュールに追われているのではないかと。ちょっと説明の仕方がおかしい。
宮本教育長	今まで皆さんの方からスケジュールありきではないかというご批判があったことを私も議事録等で読ませていただいて思った。ですので、今日初めてこうやって教育長になって、皆さんとお話をする機会をいただいた時には、スケジュールありきではなくて、やっぱり子供たちにとって、どういう環境がより良い環境なのかということをしっかり話し合っていきたいというふうに思って、この場に臨んでいる。ただ、気になっているのは、今の仮校舎の状況というのは、決して望ましい状況ではないから、これは早くより望ましい方向へもっていかなければいけないのではないかとということも一方では感じている。
住民17	耐震化はできるか。
宮本教育長	技術的にはできる。
住民17	耐震化してここに戻されるとおっしゃった。
宮本教育長	そういう考え方としてはあるということを示し上げた。
住民17	タイムスケジュールということか。
宮本教育長	いえ、タイムスケジュールではなくて、ここで人数が少ない中での教育と新しい学校で統合して一定の人数がいる中での教育、今新しい教育をしようとしているというところを比較した時に、よい良い環境とはどうかということ判断を皆さんと共有しようとしている。

住民17	<p>教育のビジョンは結構だが、耐震化の問題とか80年とか、いろいろ検証事実を出された。こういうのもありますよと。こういうことはおかしいんじゃないですかと。一つとして認められてないじゃないか。</p>
宮本教育長	<p>そういう正解もあるんじゃないかということは認めている。皆さんが言ってらっしゃることを真っ向から、それは違いますと私は一言も言っていない。そういう選択肢もあるし、教育委員会が言っている選択肢も正解じゃないか、どちらも正解じゃないか、その中でより良い教育環境はどうかというところで、今統合して新しい一定規模の集団の中での教育っていうのが、これからの子供たちにはより良いのではないかという、そういうご提案をしているということ。</p>
住民18	<p>この統合する、しないということを教育委員会主導でやっているわけだが、この地域においては、保護者、地域の人がそれはやめてここでやってほしいという、三幸小学校と一緒にですよ。三幸小学校がそういうことを言って、今8年間統合しないでいるんだから、それを認めておいて、校舎が新しいからと今更そんなことを言われても、それは統合前に調査してなきゃだから、それを調査して統合ということを始めただけでしょ。校舎ができたわけだから。それでいて、今になって校舎が新しいんだからそっちに行っても認めますと。土堂小学校は、校舎が古いんだから駄目だと、耐震化も80年過ぎてるんだから駄目だと言いながら、住友銀行の跡地は80年経っても買ってから、耐震化して使おうとしている。これから何十年か使おうとしている。そこらが、話の整合性がないのではないかと感じる。だから、先程聞いたように、統合の決定権というのは、三幸小学校のように土堂小学校にもあってもいいんじゃないですかと言っている。それについて、まだ答えが出てないから、それをお願いします。</p>
宮本教育長	<p>三幸小学校では、いろんな状況の中で皆さんのご意見を尊重して、統合しなかったと思うが、今回こうやって皆さんが耐震化できるんだから、ここで耐震化して残してほしいっていう、それはしっかりと受け止めさせていただきたいと思うが、ただ、そうやって耐震化して、子供の数が少なくなっていく教育と、やっぱり一定規模の教育環境と考えた時に、どちらがいいのかなという、そういう議論なんだと思う。</p>
住民18	<p>そこは保護者が決めるものであって、押し付けるものではないと思う。だから、地域の保護者が、少人数であっても昔60数名だったんだ</p>

	<p>から、それでもちゃんといい学校になってきたわけだから、それでいいんだと言えればいいし、そうでない方は土堂から出て行って、新しい学校に行くということもあり得るかもしれない。ただその決定権を三幸小学校が現在そういうふうになっているわけだから、それと同じようにしてはどうかと、それと同じようにしてほしいということを行っている。それが可能かどうかお聞きしている。それができたら、この難しい問題はしなくてもいいと思う。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>私は、やはり一定規模の人数がいる中での教育で、これから子供たちが必要な力を身に付けていく、そういう新しい教育をしたいと思っているので、ここで耐震化するっていう話については、今のところ考えていない。そういう正解はあるっていうのは認めますが、その選択肢よりは、統合していくこちらの選択肢の方がよりよいと考えている。</p>
<p>住民18</p>	<p>百島小学校はどうなるのか。未だに百島小学校として残っているが。複式学級というところではない。あれはいいわけか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>今、百島小学校の話があったと思うが、今年度、百島小学校は在籍児童がないということで休校となっている。</p>
<p>住民18</p>	<p>休校になったということだが、ここに至るまで前何十年、私が市P連の役員をしている時からもう複式学級だったから統合すればいいという話が出ていた。あれからもう30何年放置していた。そういうところがいっぱいあって、ここにきて急に3校統合が出てきたら、そういうふうな子供の教育環境がよくないというのも全部取って付けたような話というふうにしか聞こえないと思う。だから、私、しつこく言うが、三幸小学校がああなったんだったら、土堂も十分それで、土堂も統合しないでここでやってくれと言っているんだから、声が非常に強いんだから、それも認めてもいいということにならないか。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>やはり三幸小学校との状況とは違うと思うので、それは同じ土俵で考えるのはいかがかなというふうに思っている。</p>
<p>住民18</p>	<p>これはもう堂々巡りになるが、三幸小学校が築30数年だからというのは、それに統合しようとしたんだから、それ以前に調査があったわけだから、統合すると決めたわけでしょ。それはそうじゃなかったのか。間違いだったのか。統合しようということが。</p>

宮本教育長	<p>ちょっと私もそこまで深く状況を把握してないものですから、それについて、間違ったことだったかどうかコメントができない。</p>
住民19	<p>すみません。よろしいでしょうか。先程から応酬、同じことばかりのような感じがするが、一番問題点は、市の方で教育長さんが思われている理想の学校教育と、地域みんなが思っている学校教育の在り方が真っ向から反対。どう言うのか、教室の中でだけ勉強とかいろんなものを教えて、それでいいのかということですよ。地域でみんな育てて今までやってきたものがどうなるのか、そこが全然言われずに、教育長さんグループと言うのか、役所の方は、最終的には先生の給料だとか、その他問題点はたくさんあって、統合もしたいと思っておられるのでしょうか、本当に子供たちがどっちがいいのか考えておられるのかどうか、私この度初めて来た。来て、ここの地域は、今でも災害があったら、ここが拠点になる。ほいじゃあ、年寄りはこちらへ来て死んでもいいんかということですよ。子供は上の方に行ったり、よその学校に行ったりして、地域の年寄りは皆ここに上がって来て死ぬんかということですよ。それが役所の方でまだ変わってないのということですよ。それが一つ。</p>
宮本教育長	<p>先程プレゼンの中で、ローカルな学びということで尾道学っていうことをご説明申し上げたが、今土堂小にここにいる時代に、地域の商店街に行かせていただいて、インタビューさせていただいたり、いろんな学習に協力をみんなにさせていただいて、素晴らしい学習ができたと思う。これは教室だけの学びではなくて、本当に地域に育てていただいた、そういうふうに感謝しているが、それと同じことを新しい学校でもしようということで、今日プレゼンの中でご説明申し上げた。</p>
住民19	<p>私は、そういう広域なところで、子供たちの顔も見ない、声も聞かない、それが先生のおっしゃるコミュニケーション能力が少人数だったら難しいとか、そういうこととは逆なんじゃないかなと思う。いろんなところで、いろんな人に接しながら大きくなる。特に小学校の間は、いろんな判断ができない時期なので、遠くまで行かしていいのかな、近くで、みんなで地域で育みながらやっていく。もちろん、どう言うのか、土堂小学校の利便性とかいうのもある。高須の子なんかは遠くから行っている。そのことを考えると、土堂から長江に行くくらいのはなんでもないなとも思う。でも、その地域はその地域で長年の培った</p>

ものがあるので、それを例えば耐震とか、実際には耐震はできるようにおっしゃった。そのお金をどうのこうの、極端に言ったら、所の金持ちがばさっとそれを出したら直るんかということですよ。でしょ。議会がお金を出さないからというのも先生はおっしゃったが、それを例えば有志が集めて出したら直りますかということですよ。それでもたぶん今の役所の考え方だったら、たぶんされない。始めっからそれを決めているというふうに私は取った。初めて来てそう思いましたから、時間をどうのこうのと考える余地とか、元々の学校教育に対する理念とかいうのが、地域を度外視した、それこそ教育畑とか役所畑とかだけの頭でやっておられるんじゃないかな。私が不勉強ですみません。何も分からないまま感じたことをお知らせした。

住民20

すみません。失礼します。先程からスケジュールのことが、ずっとお話の中に出てきていると思うが、昨日も私保護者なので、保護者説明会に参加させていただいた。そこで、スケジュールのことを質問させていただいたら、ちょっとどういう経緯だったか説明すると、1月24日にこういうもう統廃合のスケジュールっていうのが案として配られている。とてもじゃないけど、保護者の立場からすると、到底疲労、疲弊がすごくて、ちょっとしんどいので、もうちょっと柔軟に考えてほしいというふうをお願いした。その時におっしゃっていたのが、仮校舎のリース期間が1年半後に終わってしまうので、1年半の中でこれをおさめてほしいというふうに説明をしていただいた。やっぱりそれはスケジュールありきなのではないかと思って、私事だが、私、今土堂小学校の育友会の副会長をさせていただいているが、とてもじゃないけど保護者の皆さんに無理を言うようなことはしたくないですし、今の立場としては、やっぱり子供たちと保護者さんの生活を守ることが、私の今の仕事だと思っているので、ちょっとこのスケジュールでは難しいんじゃないかと思っている。具体的にやっぱりちょっとそう思ったことが、令和5年9月に、今年ですよ、9月、後3か月後なんですけれども、予算を通した後にすぐに開校準備委員会っていうのをすぐに設置するようなことになっている。開校準備委員会をまず設置しようと思ったら、この育友会の立場からすると、まずメンバーの選定をしなくてはならない。そのメンバーの選定は、誰がするんだろうかということ。それをするのは執行部なんだと思う。役員ですね。それは、統廃合しますよというのをまずアナウンスしなくてはならない。それは、私たちがする仕事ではないですよ。違っているか。そうですよね。とてもじゃないですけど、土堂小学校は今反対が半分以上いらっしゃる。まあ、賛成の

方も当然いらっしゃるが、とてもじゃないですけど、役員の口から統廃合しますから開校準備委員会を開きますというような、もう何足も何足も跳んだような話にはできない。じゃあ、この3か月の間に統廃合しますのでということのアナウンスし、その後メンバーを選定し、開校準備委員会を開くってなると、ちょっとやっぱり難しいなというのが正直な感想。開校準備委員会のメンバーが決まったとして、執行部のメンバーを決めるのには、総会、PTA総会というのを開いている。そこで保護者さん全員の承認を得られて、初めて私たちは執行部として仕事ができることになるわけ。これは、役員5名だけではなく、実行委員会の委員長の方たちも皆さんそう。というわけで、開校準備委員会をしようということになると、総会を開かなくてはならないわけですね。そんなことをしていたら、とてもじゃないですけど10月に開校準備委員会もできないわけで、その後閉校準備というのもしていくわけですよ。そのメンバーの選定もしなくてはいけない。それはなんか無理があるなということがすごく心配している。誰がどういうふうに決めていくのか、さっき決定権の話もされていたが、あちらの方が。選択権がどこにあるのかというふうにおっしゃっていたと思うが、ちょっとごめんなさい、二転三転してしまうが、とてもじゃないが、私たち役員から、今から統廃合しますから協力してくださいなんて、とてもじゃないけど言えない。だから、そこをはっきりしてもらわないと次に進めない。皆さんのおっしゃっていることも解決してから話が進むのが、やっぱり道理だと思うので、そこをよく考えていただけたらと思う。以上。

住民21

すみません。昨日も参加させていただいたが、何度も同じことを申し上げるようで申し訳ないが、声を上げ続けていかないと、大筋で合意を得られたと言われてしまうので、同じことを何回も申し上げる。千光寺グラウンドに上がった時と同じように、理解をしていないのに、上がってくださいと無理やり上がらされたと思っている。千光寺公園に上がる説明が終わる前に、ひとまずバスのお話をしましょうという話でバスの話が始まって、ただこのバスのお話に関しては、どうしても参加しないと、実際上がりやすくなった時に、話し合いに参加してないでしょと言われてしまうと困るので参加した。ただ、そのバスのお話が終わった時に、今度は新しい学校ができるので、見学しましょうというような話になった。正直合意はしていないのに、無理やり上がらされたと思っている。話をすり替えられて、あれよあれよと上がったという認識。新しい学校に統合する時も同じように、今通学路の話が出ているが、それが整備が終わったので、どうしましょうとか、今バスも見ているので、こう

しましようという話がどんどん進んで、統合に賛成していないのに、もうそこが固まったので、いつ上がりましようとか、いつ統合しましようとか言われても困る。今ちょうど子供が帰って来たので、昨日も一緒に参加したが、ぜひ伝えてほしいということがあるので、伝える。子供たちの中では、上に上がっている間に耐震をしてもらえるとあって上がっている子が結構いる。うちの子もそう。いつになったら下りられるのかとずっと聞かれる。宮本教育長が、先日、土堂小学校に尋ねていただいた時に、たぶん掃除の時間だったみたいだが、昼休憩でした。ごめんなさい。だったみたいで、子供たちの中では、宮本先生が帰って来たからもう大丈夫だと言っている子も結構いる。その子供たちの気持ちを踏みにじるのはやめていただきたい。

あと何点かあるんですが、ごめんなさい。この前の5月の15日の育友会の意見交換会の議事録を見させていただいたが、決定方法に教育委員会として決める時期が来ると思っているという発言があったが、これも時期が来たので教育委員会が決めましたというのはやめてほしい。合意は得られていないのに、千光寺グラウンドに上がった時のようなことは絶対にやめていただきたいと思う。あと、令和10年に1学年になる学年があるがという質問があった時に、児童数を増やす取組はするのでしょうかという質問があったそうだが、新しい学校を提案しているので、市内の拠点に、拠点学校になるということなので、当面人数がどうなろうと学校は残るといふ発言があるみたいだが、その時点で、もう少人数を解消したいので、統合案を進めているというのが破綻していると思う。学校選択はどうするのかという質問もあったみたいだが、その中で、学校選択で学級が増える可能性もあると思っているという発言があるみたいだが、これだと、土堂小学校で耐震をして、学校選択制を元に戻し、子供たちを集めた方が利便性がよいのであれば、この地の方が人が集まると思う。いいですか、続けて。

宮本教育長

今お聞きしていて、本当に皆さんの土堂小学校への愛というのがすごく大きいというのが改めて感じたところだが、何ていうのか、皆さんの思いは、私もそうであつたらいいなというのは、心の中ではどこかにある。ですが、尾道市の教育を預かる教育長として、やはりいろんな観点から考えた時に、どれも正解だと思うが、どれを選んだらいいんだろうかという、そこの判断だが、いろいろ言ってくださった皆さんの思いを受け止めながら、総合的に考えて判断していくしかないのかなというふうに今思っている。

<p>住民 2 1</p>	<p>ごめんなさい。次もいいか。一刻も早く仮設のこの異常な状態を解消してあげたいとおっしゃってはいただいているが、今4年生のうちの子は、もしこのスケジュールで本当に進んでいくのであれば、6年生で仮設から仮設に移動し、中学校1、2年生で、いや中1年生の時もまだ仮設。2年生3年生は新しい校舎に移るが、元の校舎を解体しているという時期になる。この状態で、一刻も早く仮設を解消してもらってもって思うので、新しい資料には、もう、この子たちが過ごす仮設の説明はなくて、新しい校舎の、あたかもきれいな状態しか載ってなくて、この学年のこととかを考えるのならば、そこまで新しい学校ができるまでどういう状況かという説明の書類も一緒に載せていただきたいと思っている。ちょっとこのスケジュールでいって、落ち着いた生活で、子供たちに夢のある状況をというのが、親の立場からいくと、ちょっと賛成することはできない。前の方も言われていたが、スケジュールをやっぱり見直してほしいと思っているのと、今上に上がっている間に耐震の工事をしていただきたいと思っている。以上。</p>
<p>住民 2 2</p>	<p>今皆さんにちょっとお伺いしたいが、新しい学校での提案をされたこと、何か残っているか。その中の何かそれはいいなとか、いやそれは同じだろうとか、何か残っているか。ないですね。私ね、何も入ってこない。あれ何回説明されても、もうええ加減やめてくれという感じ。どうしてかと思った。これは、今年の11月22日にこの新しい学校を創るとか、統合するとか、一貫校にするとかっていうのをそこで初めて提案されて、初めて聞いたわけ。もう晴天の霹靂。土堂校区の方、みんなそうだと思う。何これという。それは、思いもよらないものだったから、それは自分としては理解ができないと思う。一方的。その時、それは白紙撤回の後の提案だったと思う。よもや白紙撤回の意味はご存知ではないと思わないが、どうか。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>一つ反論的なことを申し上げて恐縮だが、今日プレゼンの中に入れていたモジュールとか、太鼓のこととか、尾道学のことなどは、今土堂小学校でこれまでやってきた、私が校長時代にもやってきたことが入っているので、それは皆さん賛成というか、賛成だと思う。それは否定されるものではないのかなと思うので、今日プレゼンさせていただいたことは、土堂小学校のいいところをこれからも生かしていきますよという、そういうご提案だったので、それはそれとして、私としては、何も残っていないって否定されるのは、ちょっとおもしろくないっていうか、それはちょっと違うのかなというふうに聞かせていただい</p>



	た。
住民２２	それはちょっと言いすぎだったかもしれないが、それぐらい入ってこないものだったという、その根拠は、白紙撤回をどう理解されたかということにある。
宮本教育長	白紙撤回するつもりは今のところない。
住民２２	昨年のこと。白紙撤回して以来、最初上がる時に白紙撤回すると言われたんですよね。そのこと。
宮本教育長	今後のことは白紙として、まずは安全性確保のために、千光寺グラウンドに上がってくださいというそのことです。
住民２２	はい。
宮本教育長	はい。分かりました。
住民２２	その時に白紙撤回っていうことを考えた時に、やっぱり両極のことを考えないと白紙撤回ということにならないと思う。真っ白ということですよ。部長さんとか、課長さんとか、もちろんそういうことをご存知ですよ。白紙撤回の意味を。だから、ゼロから出発しないといけなかったことを一方的に、一方的と言うとまた言葉が強いかもしれないが、新しく建てることによって、そちらに誘導されたような気がする。私としては。だから、もっと言えば、反対の残すという点では検討されたのか。それを、全然真逆ですよ。真逆だが、そうしないと白紙撤回の意味ではないと私は思う。だから、そういう検討を先程こちらの方がおっしゃったように、全国的にどれだけのことを耐震のことについて残すという方向で話し合いをされて、実際に残っている学校があるとか、そういうことの調査とか、検討をされたのか。そうしないと、対等な感じがしない。白紙撤回の意味じゃないと思う。
宮本教育長	白紙の状態から、今後の土堂小学校を含めて、この長江小学校から久保小学校、それからまた途中から中学校も出てきたが、どういう学校の在り方がいいのかを検討して、今の提案をしている。ですから・・・。
住民２２	それはいい。それはよく分かる。だからこういう提案が出たわけだけ

<p>宮本教育長</p>	<p>ら。そうじゃなくて、ここを残すという方で、調査とか、これだけ地域の方が反対されているんだから、どういう方法で残していけるかということを経済委員会では検討されたのか。</p> <p>さっきからも議論になっているが、ここを例えば何億かかるのかな、耐震化する、そしてここに子供たちを戻す、そして何年、また近い将来、もう限界がくるので、また考えなくてはいけなくなってしまうということは、経済委員会の中でもかなり議論をしている。やっぱり繰り返しのようになって、皆さんにとっておもしろくない話になってしまうが、やっぱり土砂災害の危険性とか、児童数が減る問題とか、これからの教育にとってどういう環境がより良いのかということを経済で考える中で、今のご提案になっているということ。</p>
<p>住民 2 2</p>	<p>この提案については、ものすごく細やかに、たくさんの方が詰め込まれている。残すための議論、調査の内容というのは、どこかに出ているか。検討された。もしそれを私が見落とししていたらすみません。気が付かなかったということになるので。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>はい。すみません。敷地を、場所を選択する際に、どこの場所にどういった学校を整備するのか、望ましいかということで、建て替えを前提に検討をさせていただいている。</p>
<p>住民 2 2</p>	<p>それはどこかに公表されているか。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>説明会等で・・・すみません。少々お待ちください。すみません。資料がすぐ出てこなくて申し訳ないが、検討の過程で、まず敷地を選択する時に、どこの場所が望ましいか検討させていただく際に、それぞれ建て替えて、それぞれの敷地、元々の敷地について検討させてもらっている。</p>
<p>住民 2 2</p>	<p>ちょっと違う。ここの土堂小学校を残すということに対しての検討。そういう意味で、どこの敷地に残すのかという、そんなことではなくて、みんなはここに残りたいと思って、上に上がることも受けたわけですよ。だから、残すとしたらどういう方法があるかということを経済検討したのかということを経済している。これだけの新しい学校に行った方がいい、造った方がいい、これだけの細やかなスケジュールをやっぱりそれに対応できるくらいな、ここに残すことの調査とか、ちゃんと</p>

<p>末國庶務課長</p>	<p>対等に出していただかないと、ちょっとそこがよく分からない。</p> <p>先程の資料等、検討結果ということで、令和4年の11月22日の育友会の説明会等では資料をお配りしているものがある。地域の皆様には、お手元に届いてなかったかもしれないが、そちらの方に検討経過というものは、お示しをさせていただいている。それで、耐震化という形ではなくて、建て替えについて、それも統合という形でどこに残したらいいか、新しい形で建てるにあたって、複数の敷地のそれぞれに建てるのは、難しいという考えがあったので、その部分で検討させていただいた経過はある。</p>
<p>住民22</p>	<p>今、土堂小学校のことを言っているか。土堂小学校は、上がれと言われて上がって、戻って来れると思って上がって、帰って来た時に新しい学校にしますと言われた。そこ納得できるか、それで。だからそこからいったのに、どういっても、みんなここにいる人は残りたいと思って来ている。だから、そのところが、あまりにもバランスが悪くて、もうなんか進めていく、進めていくという方に時間が進んでいるように思う。ごめんなさい。長くなって。教育長さんが、1日も早く、一刻も早く子供たちを上からというか、解消してやりたいということを昨日もおっしゃった。そこは、住民のみんなとの気持ちを共有していただいているんだなとすごく感じた。だったら、そのところを耐震化して、子供たちを早く戻してください。そう思う。そして、ここに残りたい、とにかく。だから、土堂に残ることはもうできないのか。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>本当に皆さんのここに残って教育ができる環境をつくってほしいという、その気持ちは本当によく分かるし、私も何べんも言うが、心の中のここには、あったらいいなというところがある。</p>
<p>住民22</p>	<p>もう分かりました。あったらいいなはいい。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>ですが、ここに残る、仮設を早く解消して、きちんとした校舎で教育をするというのは、これはもう私の責任においてやりたいこと。その場合、ここに帰ってくるのがいいのか、それとも新しく長江中学校に造る新しい校舎で一定の人数でやるのがいいのかっていう、その判断を私は、ここに残るよりは、皆さんの気持ちにそぐわないが、新しい学校でやる方がよりいいんじゃないかなと考えている。</p>

<p>住民 2 2</p>	<p>だから、そういうことではない。帰りたい、ここに。だから、耐震化して、子供を戻すということをもう一度検討していただきたい。それが質問、質問と言うか、これからお願いしたい一つ。それと、さっき残す方向に調査検討について、さらに詳しいことをどういうふうにされたのかということを示していただきたい。これはちょっと話が横になるかも分からないが、小柳部長が、5月のPTA会、4回目の意見交換会ですかね。その時に説明会をいつまでやるのかという質問に、6月を最終とし、勝負の時期とおっしゃった。議事録に残っている。すごいですね。勝負するんですよ。誰とするんか知らんけど。こうやって、さっきのタイムスケジュールが区切られている。教育委員会の中では。どんなにうまいことを言っても。だから早く通したいんでしょ、9月に。そういうことが、いろんなどころでありありと伺える。だから、さっき今後も説明会をしていくと、ちょっと教育部長の後ろの、横の課長さんでしたかね。おっしゃったので、次もあるんですよ。その時に、先程言った残す方向での検討調査をどの程度されたのかということと、それと、耐震化して子供を戻すという再検討の結果を聞かせてください。お願いします。帰りたい。</p>
<p>住民 2 3</p>	<p>いろいろ聞かせていただきまして、ありがとうございます。まずは宮本先生、ありがとうございます。いろいろ汲んでいただきまして、前教育長よりははるかにましになったなというふうに思っている。しかしながらだが、私の子供もまだ一応土堂小学校に通っている。前回、かなり前になるが、上に上がる時に、今どこかの小学校の校長をしていると思うが、女性の何とかさん。もう名前を忘れたが。涙ながらに明日地震が来たらどうするのか、耐震化しているところに行かないといけなと言われて、耐震化、耐震化と言われて上がったわけだが、耐震化をされていない体育館で早何年か過ぎようとしている。正直言って、これ嘘つきやなというのが私の印象。まずは、そのところが私の心は怒りでいっぱい。騙されましたと。これ以上言うと、私も何を言うか分からないので、同じ心をもつ人にちょっと言ってもらおう。</p>
<p>住民 2 4</p>	<p>すみません。ちょっとバトンを置いていただいたが、重複するので、重複しない系のを言わせていただく。この土堂小学校は、地域によって育まれた学校で、この地域の特性があってこそ、この場所であっての土堂小学校。この土堂小学校は、今まで何度も話があったように、何度もいわゆる廃校、もしくは統廃合の危機を迎えていた。今ここにいる橋塚会長の時に、確か統廃合の話がきていて、その時の亀田前市長が来ら</p>

れて、その時はまだ広島県が教育が荒れに荒れていて、高須小学校で問題が起きた時とか、そういった時があった。しかし、ここの小学校は、国旗掲揚、国歌斉唱、仰げば尊しを歌っているというので、亀田前市長が腰を抜かした。それほど、地域と密接と子供たち、そして教育に関しての意識レベルが高い学校なんだと、だからここは残さないといけないという話になった。そして、コミュニティ・スクールとか、陰山先生という流れになっていった。この地場の力というのは、すごく大きい。ですから、そういうこともぜひお考えいただきたいと。今、とにかく上に上がっている子がかわいそうだからというのは、市議会の議員さんの説明会でも使われるだろうが、そのかわいそうなことにさせたのは、どこのどなたかと。今バトンを渡してくれた人が言ったように、とにかく上がれ、とにかく上がれと言って、上がらせて、何するのか分からないけど、上がらせとけと言って上がらせて、こういう流れ。でも、その時多くの保護者は、いつか戻れるものだと思って上がった。騙し討ちみたいにしてている。でも、そういうことは議員さん説明ではせずに、かわいそうだから戻さないといけないから、このスケジュールでやらないといけないんだと、スケジュールありきが必ず出てくる。そのスケジュールありきを我々はすごく不信。そういういきさつが入っていない。他の議員さんは興味ないかもしれないが、でもこのいきさつを知っている議員さんにとっては、そんなことはなからうがというのが話だ。宮本教育長が、教育長ではない時の話をさせていただいているが、実際問題、今までの教育委員会は、そういうやり方をしてやってきた。それが、ここにおられる大勢の不信感を招いている。そして、前市長が残したという思いはこの場所。そして、この地域。それを統合小学校がありますから、どうですかと言われてもおそらくできない。やはり伝統っていうのはそういうものだと思う。その点をよくお考えいただき、議員さん説明の時にもありのままを言って、話をしていただきたいと。そうしないと、全部できます、できますという言葉で、他の議員を籠絡するようなことではなくて、ありのままの姿を並べて説明会を開いていただきたいと思っているので、よろしくお願いします。

住民 25

2回目の質問になるが、前回も3月にも質問させていただいたが、教育長が代わったのでもう1回お聞きするが、数年前コロナになって、この場所で説明会だったと思うが、白紙撤回されると佐藤教育長が言われて、その時に合意形成ができるまでは絶対に進めない、統合だったりとか、まだその案を進めないことを明言されたが、一人でも反対がいたら、合意形成ができていないとみなして、進めないというのを明言され

	<p>た。それは議事録に残っているか。教育長が代わられて、宮本教育長は、それを引き継がれるか、どうか。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>一人でも反対の方がいらっしゃったら進めないというのは、議事録に残っているか。ちょっと私は把握できていない。</p>
<p>住民 2 5</p>	<p>ここに参加されていた方は多くの方が聞かれていると思う。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>私の今思いとしては、いろいろ皆さんが土堂小学校の本当に教育を評価してくださって、地域とともに作り上げた、本当に全国に誇るべき学校だと思う。その証拠にコロナ前の研究会には、全国から 200 人を超える先生方が見に来てくださった。私、このステージの上で、このいっぱい全国から来られた先生方の前で、本当によく来ていただきましたというご挨拶を申し上げたのが、今でも蘇るが、それだけ土堂小学校を参考にして、自分の学校も土堂小学校のいいところを取り入れていきたいという、そういう学びたいという思いで、わざわざ遠路来てくださって、本当にありがたいことだな、それだけ土堂小学校の教育っていうのは、全国的にも評価されて素晴らしいものだなと実感した瞬間だった。ですから、皆さんが、この学校をとにかく残してほしいというお気持ちは、当然のことだと思って受け止めているが、ただやはり先程から申しましたように、ここに耐震化して残して、子供の数が減って、災害のリスクも解消しない、そういう中で、新しい学校を造って、新しい教育を進めるといふところの比較を考えた時に、どちらが本当に責任をもった教育長としての判断なのかっていうところは、今日もいろいろご意見をお伺いしたが、最終的には何かの判断をしていかないといけないというふうに思っているので、全く皆さんが反対の人がいなくなるまでっていうことは、ちょっと現実的にはどうなのかなと、それは本当に正しい判断になるのかなというものはある。一人も反対の方がなくなるまでやり取りをさせていただくというのは、相当の時間と月日がかかることではないかなと思う。今思うのは、とにかく私の思いや考えを聞いていただき、いろんな問題をご指摘いただきながら、皆さんとやりとりをしながら、少しでも共通理解が図られるように、私としては、そういう時間になったらいいなと思って、そういう努力はこれからもしていきたいなというふうに思うが、ただ今の仮設の状態というのは望ましい状況ではないので、それを早く解消していきたいという気持ちもあるので、そういったいろんなことを考えながら判断していかないといけないと思っている。</p>

住民 2 5	<p>ありがとうございます。正式にそれは、佐藤教育長のお言葉を撤回されたということか。</p>
宮本教育長	<p>佐藤教育長が、ちょっとどういうふうにおっしゃったかというのは、今把握できていない・・・。</p>
住民 2 5	<p>かなり熱くなられて、述べられていたが。</p>
宮本教育長	<p>もしそういうふうに言われていたかどうか、事実かどうか確認してみないと、私もここでコメントするのは難しいと思う。</p>
住民 2 5	<p>言葉は軟らかいが、ごり押しでどんどん進められている感がすごくある。まだ佐藤教育長の方が、聞く耳はもっていなかったが、進めるようなことはしないと明言されていたので、どんどん進められているような気がして、ちょっと・・・。</p>
宮本教育長	<p>佐藤教育長さんとはちょっと立場が違う。私はここの土堂小の校長として3年間、皆様のご協力、ご理解をいただいて、教育を進めてきた者ですので、やっぱりその感謝というか、皆さんに対しての感謝の気持ちや、それから保護者の皆さん、子供たち、それは愛着というのが相当あるわけですから、今日こうやってお話させていただいているが、皆さんの思いはすごく分かる中で、皆さんにとってはつらいお話をさせていただいているというふうに思っているので、佐藤教育長とは立場が違うので、こういった話になっているということをご理解いただきたいと思う。</p>
住民 2 5	<p>まだ可能性は残されているということか。今後また対話をして、ちゃんと意見は取り入れるということによろしいか。</p>
宮本教育長	<p>また今後とも、今日で終わりということではなくて、また皆さんのご意見をお伺いし、また私の思いもお伝えする機会をもちたいと思っている。</p>
住民 2 6	<p>まず、やはり教育長の仕事。東京大阪の方から、尾道の土堂小学校はこういう教育をしますよと、移住してきてくれませんかと行脚していくのが、50組、100組の家族が移住してくれば、人数は足りる</p>

と思う。それから次に予算がどうのこうのという話があったが、住銀を数千万で買って、数億で改修している。同じ80年くらい経っているのに。大体20年から30年は使うつもりのようなので、それくらいこども耐震化すればもつ。この学校教育の説明、全然心に入らないのは、1つは具体例のかけらも出ていない。美辞麗句だけで話があるから、頭に入らないんだと思う。具体的な話は一切されていない。これを読み上げただけ。その辺で心に入らないんだと思う。それから、この教育についても、今AIがこれだけ発達している。子供もスマホを持ち、iPadを持ち、パソコンでつついている。その中でデータを出したり入れたりしている。それをあなた方は追いついていないのではないか。分かっていないのではないか。だから人数合わせをして、新しい校舎を造ろうと。どちらかというとし役所の上の方を見ながら仕事をしているのではないか。以上、これについても次回は具体例を何個か入れていただきたいというのと、全国行脚をしてほしいなという希望で終わりたいと思う。

#### 5 閉会挨拶

小柳学校教育部長

本日は、第2回土堂小学校区地域説明会をさせていただきました。主には3月25日以降の取組内容について、報告させていただくとともに、小中一貫教育校の教育内容等について説明させていただきました。本日、たくさん意見をいただいたわけですが、それらの意見等も再度考えていかなければいけない部分や次回お示しできる点等を整理させていただいて、保護者や地域の皆様に新しい学校づくりについてさらに理解をしていただけるよう対応していきたいと思っております。今後も教育内容の充実に向けた視察や研修、通学路の安全対策等にも取り組んでまいります。本日は、ありがとうございました。

21:55 終了

※議事録中の住民を示す数字は一連の質問の流れを示すものであり、異なる数字であっても、同一の方のご発言である場合があります。